

## 2013 年度 研究所・センター事業報告書

研究所・センター名	人間科学研究所
研究所・センター長名	松田 亮三

### I. 研究成果の概要（公開項目）

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 ヵ年)および 2013 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうことができるだけわかりやすく記述してください。なお、2013 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、別紙「研究所重点プロジェクト実績報告書様式」(非公開)に記述のうえ提出してください。

#### 1. 全所的プロジェクトの推進

対人援助に関わる戦略的研究として全所的プロジェクト「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」を推進した。同プロジェクトが文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されたことを受けて、リーダーズ会議等必要な研究体制の構築、多文化臨床ラボ等の整備を創思館に行い、研究を推進した。2014 年 1 月に南カリフォルニア大学からの招聘研究者を招き、研究所年次総会を兼ねる公開キックオフミーティングを開催し、5 チーム（方法論チーム・予見的支援チーム・伴走的支援チーム・修復的支援チーム・基礎研究チーム）からプロジェクトの今後について検討するとともに、同若手研究者が中心となったポスターセッションを実施した。なお、プロジェクトの研究成果の一部は、シリーズ刊行物『インクルーシブ社会研究』として冊子にまとめることとしており、既に 2 号を刊行し、研究所ホームページ（HP）上でも公開している。

#### 2. 学術誌の刊行・メディア媒体を使用した発信

『立命館人間科学研究』については、受理論文数の増加により、例年より 1 号多い 3 号を刊行した。掲載された 27 本の論文は外部査読者を含む 2 名以上の査読を経たものである。また研究成果の社会的発信を促進するため、日英両言語により、イベント案内や「人間科学のフロント」（研究成果発信ページ）等、HP 上で積極的な情報発信を行った。特に、研究所年次総会においては、申込受付・当日内容の一部（ポスター発表の抄録）公開・開催報告に至るまで HP を大いに活用した。また、より効果的な情報発信を行うため、「ソーシャルメディア運用ガイドライン」を制定する等、各ソーシャルメディアを次年度より運用するための準備を整えた。

#### 3. 研究所セミナーと公募型研究助成の実施

海外を含む研究所内外の研究者と濃厚な研究交流の場を設け、所内の各プロジェクトの研究活動の活性化や、新たな研究プロジェクトの展開を促すことを目的として、研究所主催の研究セミナー「アドバンスト研究セミナー」を今年度より開始した。セミナー企画を競争的に所内公募し、3 件のセミナーを実施した。また、研究所重点プログラムの資金を活用し、新たな研究プロジェクトの展開に結びつくことを目的とした「萌芽的プロジェクト研究助成プログラム」を実施した。これは、新たに研究所の活動に参画しうる研究者を含めた競争的資金であり、応募されたプロジェクトから 4 件（うち 2 件は所外）を採択した。情報の有機的連関による社会的支援に関する研究、生物人口学に基づいた効果的な少子化対策の研究、対人援助におけるエビデンス-実践回路研究、被災地の福祉労働者による実践活動に関する研究など対人援助に関わる多彩なプロジェクトであり、全てが次年度への継続プロジェクトとなるなど、新たな参加研究者につながった。

#### 4. その他研究の展開

全所的プロジェクト以外に、34 の個別プロジェクトがそれぞれ多様な進展を見せた。例えば、「ひきこもる若者を対象とするピアアウトリーチ支援者養成に関する研究」や「ユースワーカー養成のための専門プログラム開発およびその学術的基盤となる「ユース・スタディーズ」の研究」は外部資金を活用し、学外と連携した研究を進めた。「臨床心理学をベースにした「リラククス効果」「ストレス緩和」に関する研究」は地域と連携したイベントの開催につながった。「錯視・錯覚の総合的研究」はこれまでの研究成果がメディアにも取り上げられた。「規範理論と実証理論の対話的融合に向けての研究」は学外研究者との連携の末、新たな外部資金を獲得し、次年度以降の研究活動の基盤を確立した。

## II. 研究業績（公開項目）

本欄には、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。（2014年3月31日時点）

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	サトウタツヤ	質的心理学の展望	単著	2013年5月	新曜社	サトウタツヤ	
2	サトウタツヤ	質的心理学ハンドブック	共編著	2013年9月	新曜社	やまだようこ・麻生武・サトウタツヤ・秋田喜代美・能智正博・矢守克也	600
3	サトウタツヤ	法と心理学の歴史 藤田政博（編）『法と心理学』	分担執筆	2013年9月	法律文化社		98-114
4	宇都宮博	エピソードでつかむ生涯発達心理学（担当：配偶者選択と結婚生活への移行、生涯にわたる配偶者との関係性の危機と発達、老年期の家族・社会関係、ライフサイクルと家族のケア役割をめぐる問題）	分担執筆	2013年4月	ミネルヴァ書房	岡本祐子（編）	
5	宇都宮博	新・青年心理学ハンドブック（担当：家族関係）	単著	2014年1月	福村出版	日本青年心理学会（編）	
6	宇都宮博	青年期発達百科事典（担当：親の離婚経験）	共訳	2014年3月	丸善出版	青年期発達百科事典編集委員会（編）	
7	宇都宮博	日本の夫婦（担当：高齢期夫婦の関係性）	分担執筆	2014年	金子書房		
8	宇都宮博	心理学スタンダード（担当：人間関係—家族・友人・恋人を中心として—）	分担執筆	2014年	ミネルヴァ書房		
9	吉田甫	2 ネオ・ピアジェ派の考え方（第4章） 田島信元・南徹弘編「発達心理学と隣接領域の理論・方法論」発達心理学ハンドブック1巻	単著	2013年	新曜社		58-71
10	春日井敏之	望月 昭・村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之編『対人援助学の到達点』・『いじめ・不登校問題』から見える子どもの世界と実践的課題』	編著	2013年7月	晃洋書房		151-167
11	春日井敏之	村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之・望月 昭編『対人援助学を拓く』	その他	2013年7月	晃洋書房		
12	春日井敏之	春日井敏之・近江兄弟社高等学校単位制課程編『出会いなおしの教育—不登校をともに生きる』・「単位制課程における教育実践の意味」,「保護者との協働と不登校支援」	共編著	2013年9月	ミネルヴァ書房		18-26,208-217
13	服部雅史	第5部 思考「ウェイソン選択課題」 「仮説検証」	単著	2013年12月	有斐閣・認知心理学ハンドブック（日本認知心理学会編）	服部雅史	194-197, 198-199
14	服部雅史	思考・推論	単著	2014年	ミネルヴァ書房・心理学スタンダード（サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明 編著）	服部雅史	141-153
15	北岡明佳	Newton 別冊 目の錯覚はなぜおきるのか？ 錯視と	監修	2013年4月	ニュートンプレス	北岡明佳（監修）	

		錯覚の科学					
16	北岡明佳	トリックアートゆうえんち	監修	2013年7月	あかね書房	北岡明佳(監修)・グループ・コロンプス(構成・文)	
17	北岡明佳	錯視大解析 脳がだまされるサイエンス心理学の世界	単著	2013年8月	カンゼン	北岡明佳	
18	北岡明佳	トリックアートクリスマス	監修	2013年11月	あかね書房	北岡明佳(監修)・グループ・コロンプス(構成・文)	
19	北岡明佳	錯視と色彩デザイン (海保博之・日比野治雄・小山慎一(編) 朝倉実践心理学講座3 デザインと色彩の心理学)	単著	2013年11月	朝倉書店	北岡明佳	62-72
20	北岡明佳	心理学スタンダード 一学問する楽しさを知るー	共編著	2014年4月	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明(編著)	127-154
21	廣井亮一	『家族療法テキストブック』	分担執筆	2013年7月	金剛出版	日本家族研究・家族療法学会編	228-231
22	廣井亮一	『法と心理学』	共著	2013年9月	法律文化社	藤田政博編	168-181
23	山本博樹	発達心理学II	共著	2013年9月	東京大学出版会	無藤隆・子安増生(編)	映像の文法
24	山本博樹	コミュニケーションの認知心理学	共著	2013年10月	ナカニシヤ出版	伊東昌子(編)	子どもと高齢者に対する説明書理解の支援
25	谷晋二	司法福祉を学ぶ-総合的支援による人間回復への道-	分担執筆	2013年4月	ミネルヴァ書房	加藤博史・水藤雅彦	第4章第4節
26	谷晋二	対人援助学の到達点 第14章 対人援助学における研究倫理と実験デザイン	分担執筆	2013年6月	晃洋書房	望月 昭、村本邦子、土田 宣明、徳田 完二、春日井敏之(編著)	193-203
27	望月昭	「対人援助学の到達点」	共編著	2013年7月	晃洋書房	村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井俊之	PP. 1-213
28	望月昭	「対人援助学を拓く」	共編	2013年7月	晃洋書房	村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井俊之	PP. 1-359
29	矢藤優子	「心理学スタンダード」II 時間の中の人間発達 4章 「子ども・青年期」	共著	2013年	ミネルヴァ書房	サトウタツヤ・北岡明佳・土田宣明 編著	
30	矢藤優子	発達と学び~乳幼児から児童期の発達心理学~	共著	2013年	北大路書房	清水益治・森敏昭(編著)	
31	松田亮三	International Profiles of Health Care Systems, 2013	分担執筆	2013年11月	The Commonwealth Fund	S. Thomson, R. Osborn, D. Squires, and M. Jun eds.	76-83
32	大谷いづみ	「安楽死と尊厳死」伏木信次・榎則章・霜田求編『生命倫理と医療倫理改訂3版』	分担執筆	2014年3月	金芳堂	大谷いづみ	
33	山本耕平	障害者福祉現場で働くためのメンタルヘルスハンドブック	共著	2013年10月	かもがわ出版	峰島厚、深谷弘和、大岡由佳	37-55
34	竹内謙彰	高機能自閉症スペクトラム障害者における自己の諸側面ー発達支援への示唆ー 『対人援助科学の到達点』所収	単著	2013年7月	晃洋書房	望月昭・村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之(編著)	94-107
35	津止正敏	ケアメンを生きるー男性介護者100万人へのエールー	単著	2013年5月	クリエイツかもがわ		
36	津止正敏	しあわせの社会運動ー人がささえあうということー	単著	2013年6月	ウインかもがわ		

37	津止正敏	ケアメン百万人時代の実態と課題	単著	2013年10月	中央公論社		138-145
38	崎山治男	「日本社会と社会問題」『社会理論と社会システム』	分担執筆	2014年1月	中央法規		211-225
39	筒井淳也	「量的・質的研究の知のマッピング」平岡公一・武川正吾・山田昌弘・黒田浩一郎監修『研究道：学的探求の道案内』	単著	2013年4月	東信堂		134-150
40	筒井淳也	「マルチレベル分析：態度と価値観における国家と個人の分析」鎮目真人・近藤正基編著『比較福祉国家：理論・計量・各国事例』	分担執筆	2013年12月	ミネルヴァ書房		118-142
41	石倉康次	『部落問題解決過程の研究第3巻』『部落問題の解決過程と社会調査』	単著	2014年1月	部落問題研究所	河野健男ほか	17-92
42	野田正人	「児童虐待についての学校の対応 一特に発見と通告をめぐる一」『対人援助学の到達点』	共著	2013年7月	晃洋書房	望月昭 村本邦子 土田宣明 徳田完二 春日井敏之 編	168-179
43	野田正人	「不登校とSSW・SCの取り組み」『出会い直しの教育』	共著	2013年9月	ミネルヴァ書房	春日井敏之 近江兄弟社高等学校単位制課程編	217-223
44	野田正人	施設における子どもの非行臨床 児童自立支援事業概論	編著	2014年1月	明石書店	相澤仁監修 野田正人編集 梅山佐和ほか著	
45	徳田完二	対人援助学の到達点	共編著	2013年7月	晃洋書房	望月昭、村本邦子、土田宣明、春日井敏之	134-147
46	村本邦子	対人援助学を拓く	共編著	2013年7月	晃洋書房	村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之・望月昭(編)	
47	村本邦子	対人援助学の到達点	共編著	2013年7月	晃洋書房	望月昭・村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之(編著)	
48	村本邦子	対人援助学の到達点(第四章「対人援助学の学びをつくる～"reflexibility"をキーワードに)』	単著	2013年7月	晃洋書房		53-66
49	村本邦子	日中戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラムの開発～国際セミナー「南京を思い起こす 2013」の記録とHWH7年の成果	編著	2014年3月	立命館大学人間科学研究所(インクルーシブ社会研究1)	村本邦子編著	1-269
50	松原洋子	「優生学」、玉井真理子・松田純責任編集『シリーズ生命倫理学11 遺伝子と医療』	単著	2013年4月	丸善出版		125-142
51	西成彦	胸さわぎの鷗外	単著	2013年12月	人文書院		1-225
52	西成彦	〈外地〉日本語文学の射程	共著	2014年3月	双文社出版	木村一信ほか	
53	立岩真也	私的所有論 第2版	単著	2013年5月	生活書院	立岩真也	
54	立岩真也	造反有理——精神医療の現代史へ	単著	2013年11月	青土社	立岩真也	
55	井上彰	「社会契約論とロールズ」「分配と正義」「多元的世界における合意形成」『教養としての応用倫理学』	単著	2013年10月	丸善出版	盛永審一郎・浅見昇吾編	190-191, 194-195, 198-199

56	井上彰	「ロールズ—「正義とはいかなるものか」をめぐる—」『理性の両義性(岩波講座 政治哲学 第5巻)』	単著	2014年1月	岩波書店	齋藤純一編	151-172
57	井上彰	"Justice, Fairness, and Deliberative Democracy in Health Care," <i>Future of Bioethics: International Dialogues</i>	単著	2014年3月	Oxford University Press	Akira Akabayashi (ed.)	579-585
58	井上彰	『政治理論とは何か』	共編著	2014年	風行社	井上彰・田村哲樹編著	
59	井上彰	「ロールズ『正義論』の再検討—第3部を中心に—」『社会科学における善と正義』	単著	2014年	東京大学出版会	大瀧雅之・宇野重規・加藤晋編	
60	井上彰	「ハイエク立法理論の再検討—立法過程の政治哲学としての可能性—」『立法学の哲学的再編(立法学のフロンティア 第I巻)』	単著	2014年	ナカニシヤ出版	井上達夫編著	
61	川那部隆司	大学のIR Q&A	共著	2013年9月	玉川大学出版部	中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百・岡田有司・山田剛史	
62	松本克美	長尾治助先生追悼論文集・消費者法と民法』	共編著	2013年6月	法律文化社	鹿野菜穂子・中田邦博・松本克美編	235-245
63	松本克美	清水誠先生追悼論集・日本社会と市民法学	共著	2013年8月	日本評論社	広渡清吾、浅倉むつ子、今村与一	513-527
64	松本克美	基本講義 消費者法	共著	2013年9月	日本評論社	中田邦博・鹿野菜穂子編	188-199
65	安田裕子	うしなう 不妊・中絶(発達心理学事典)	単著	2013年6月	丸善出版	日本発達心理学会(編)	PP. 488-489
66	安田裕子	当事者の生(せい)に寄り添うということ—対人援助活動のさらなる連携と融合に向けて(対人援助学を拓く)	単著	2013年7月	晃洋書房	村本邦子・土田宣明・徳田完二・春日井敏之・望月昭(編)	PP. 42-54
67	安田裕子	質的アプローチの教育と学習(質的心理学ハンドブック)	単著	2013年9月	新曜社	やまだようこ・麻生武・サトウタツヤ・秋田喜代美・能智正博・矢守克也(編)	PP. 466-486
68	安田裕子	不妊治療の終結をめぐる当事者の語り—生殖補助医療の進展のなかで可視化される、子をもつ願望とその相克(グローバル化時代における生殖技術と家族形成)	単著	2013年12月	日本評論社	日比野由利(編)	PP. 55-78
69	村本邦子	インクルーシブ社会研究 1 日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発	単著	2014年3月	立命館大学人間科学研究所	村本邦子(編)	
70	山崎優子	インクルーシブ社会研究 2 『法と人間学』という学融的領域が切り開く未来	共著	2014年3月	立命館大学人間科学研究所	山崎優子・サトウタツヤ(編)	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	サトウタツヤ	心理学史という文脈からみた森田正馬の活動	単著	2013年4月	森田療法学会雑誌(24巻)	サトウタツヤ	25-33	
2	サトウタツヤ	複線径路・等至性モデル、世界を駆ける(2) — 対人援助学&心理学の縦横無尽(10) —	単著	2013年6月	対人援助学マガジン(13号)	サトウタツヤ	94-103	

3	サトウタツヤ	東日本大震災後のソーシャルメディアにおける地震予知流言	共著	2013年7月	立命館人間科学研究(27号)	上村晃弘・サトウタツヤ	113-120	有
4	サトウタツヤ	文化的記号と文脈が織りなす心理—東日本大震災由来の風評克服のために	共著	2013年10月	立命館人間科学研究(28号)	木戸彩恵・サトウタツヤ	115-126	有
5	サトウタツヤ	質的研究とHCIの豊かな接点と未来へむけて	単著	2013年11月	ヒューマンインタフェース学会誌(15巻4号)	サトウタツヤ	35-40	
6	宇都宮博	親の期待に対する反応様式の発達的変化—大学生の回想データから—	共著	2013年10月	立命館人間科学研究(28号)	春日秀朗・宇都宮博・サトウタツヤ	127-136	有
7	岡本直子	幼児期におけるファンタジーの諸相—モンテッソーリ教育の見解と心理学的考察を踏まえて—	単著	2013年5月	モンテッソーリ教育(45号)	岡本直子	87-96	
8	吉田甫	3年間にわたる健康高齢者の記憶の変化について—作業記憶と短期記憶を中心とした検討	共著	2013年	立命館人間科学研究紀要(No.26巻)	孫琴・吉田甫・土田宣明・大川一郎	1-8	有
9	吉田甫	Motor inhibition in aging: impacts of response type and auditory stimulus.	共著	2013年	Journal of motor behavior(45巻4号)	Tsuchida, N., Yoshida, H., Morikawa, S., & Okawa, I.	343-350	
10	吉田甫	学習活動の遂行で健康高齢者の認知機能を改善できるか—転移効果から—	共著	2014年	心理学研究(Vol.85巻2号)	吉田甫・孫琴・土田宣明・大川一郎		
11	東山篤規	書評: H. R. ロス・C. プラグ(著)『月の錯視のなぞ—大きき知覚の探求』	単著	2014年3月	立命館文学(尾田政臣教授退職記念論集)(636号)	東山篤規	13-23	
12	藤健一	スキナーの製作した機械式累積記録器の変遷と装置試作行動の分析: 1930~1960	共著	2013年9月	心理学史・心理学論(14/15号)	藤健一・吉岡昌子	13-29	
13	服部雅史	Effects of subliminal hints on insight problem solving	共著	2013年7月	Psychonomic Bulletin & Review(20巻4号)	Hattori, M., Sloman, S. A., and Orita, R.	790-797	
14	北岡明佳	錯視の心理学	単著	2013年6月	神経心理学(29巻2号)	北岡明佳	106-112	
15	北岡明佳	色の錯視いろいろ (9) 「色依存の静止画が動いて見えるの錯視: 杆体に関与?」	単著	2013年7月	日本色彩学会誌(37巻4号)	北岡明佳	400-401	
16	北岡明佳	色の錯視いろいろ (10) 色依存の静止画が動いて見える錯視: 輝度変化誘導性の運動錯視に関与?	単著	2013年9月	日本色彩学会誌(37巻5号)	北岡明佳	511-512	
17	北岡明佳	Vection induced by illusory motion in a stationary image.	共著	2013年11月	Perception(42巻)	Seno, T., Kitaoka, A., and Palmisano, S.	1001-1005	
18	北岡明佳	Infants see illusory motion in static figures	共著	2013年	Perception(42巻8号)	Kanazawa, S., Kitaoka, A., and Yamaguchi, M. K.	828-834	
19	北岡明佳	色の錯視いろいろ (11) 「錯視のデザインに及ぼす色の効果」	単著	2014年1月	日本色彩学会誌(38巻1号)	北岡明佳	26-27	

20	北岡明佳	色の錯視いろいろ (12) 「色立体視」	単著	2014年3月	日本色彩学会誌(38巻2号)	北岡明佳	71-72	
21	廣井亮一	「刑務所におけるペア レンティングプログラム」	共著	2013年8月	『家族療法研究』(30巻2号)	下郷大輔、佐々木 順子、廣井亮一	44-51	有
22	廣井亮一	「司法臨床の展開(第二 報)―情状鑑定と裁判員 裁判」	共著	2013年10 月	『法と心理』(13巻1号)	廣井亮一、辻孝司、 堀悠子、坂田真穂、 村尾泰弘	71-75	有
23	廣井亮一	「学校における法にか かわる問題への対応 ―法と臨床の協働―い じめ問題」	共著	2013年10 月	『児童心理』(974号)	廣井亮一、河野聡	116-123	無
24	廣井亮一	「学校における法にか かわる問題への対応:法 と臨床の協働―体罰問 題」	共著	2013年11 月	『児童心理』(976号)	廣井亮一、大田原 俊輔	119-125	無
25	廣井亮一	「学校における法にか かわる問題への対応 ―法と臨床の協働―暴 力問題」	共著	2013年11 月	『児童心理』(977号)	廣井亮一、中川利 彦	117-123	無
26	廣井亮一	「学校における法にか かわる問題への対応 ―法と臨床の協働―保 護者対応」	共著	2014年1月	『児童心理』(979号)	廣井亮一、中川利 彦	119-125	無
27	山本博樹	本当に読み手は読解過 程を通じて見出しの恩 恵を受けているのか? ―PCを用いた時系列的 な評価法による検討―	共著	2014年3月	立命館文学(636号)	山本博樹・織田涼	109-121	
28	谷晋二	自閉症スペクトラム障 害の支援技法の総括と 今後	単著	2013年6月	精神療法(39巻3号)	谷 晋二	364-370	
29	谷晋二	ACT workshop for parents of children with developmental disabilities	共著	2013年10 月	立命館人間科学研究(28巻)	TANI Shinji, KAWAI Etuko, and KITAMURA Kotomi	1-11	有
30	土田宣明	Motor inhibition in aging: Impacts of response type and auditory stimulus	共著	2013年	Journal of Motor Behavior(45巻4号)	Tsuchida, N., Morikawa, S., Yoshida, H. & Okawa, I.	343-350	
31	土田宣明	3年間にわたる健康高齢 者の認知機能の変化:抑 制機能および関連する 認知機能を中心とした 検討	共著	2013年	高齢者のケアと行動科学(18 巻)	孫琴・吉田甫・土 田宣明・大川一郎	51-60	
32	矢藤優子	Factors related to social competence development of thirty-month-old toddlers:longitudinal perspective	共著	2013年	Japanese Journal of Human Sciences of Health-Social Services(19巻1号)	Emiko Tanaka, Etsuko Tomisaki, Ryoji Shinohara, Yuka Sugisawa, Lian Tong, Taeko Watanabe, Yoko Onda, Yuri Yauchi, Maki Hirano, Yukiko Mochizuki, Kentaro Morita, Amarsanaa Gan-Yadam, Yuko Yato, Noriko Yamakawa, Tokie Anme and Japan Children's Study	21-30	

33	矢藤優子	Strengths and Difficulties of 30-month-olds and Features of the Caregiver-Child Interaction	共著	2013年	Journal of Health Science(3巻2号)	Sugisawa, Y., Tanaka, E, Shinohara, R., Tong, L., Watanabe, T., Yato, Y., Yamakawa, N., Anme, T.	15-20	
34	矢藤優子	保育園年長児におけるオートバイを使用した教育実践に関する実証的研究	共著	2014年3月	立命館文学(636巻)	矢藤優子・杉本五十洋	122-130	
35	松田亮三	Changing roles of social health insurers in delivering public health services. :	共著	2013年5月	Articles from the 13th World Congress on Public Health (April 23-27, Addis Ababa, Ethiopia)(283巻286号)	Matsuda,R. and Nakahara, T.		
36	松田亮三	Cultural differences in clinical leadership: a qualitative study comparing the attitudes of general dental practitioners from Greater Manchester and Tokyo	共著	2013年11月	British Dental Journal(215巻E19号)	P. Brocklehurst1, M. Nomura, T. Ozaki, J. Ferguson & R. Matsuda		
37	松田亮三	健康政策の新たな展開—状況、目標、実施—	単著	2013年11月	東海病院管理学会年報(平成24年度号)	松田亮三	35-38	
38	秋葉武	過疎地における地域活性化—NPO 法人砂浜美術館を事例として—	単著	2013年12月	協同組合経営研究誌 にじ(644号)	秋葉 武	90-97	
39	大谷いづみ	「理性的自殺」がとりこぼすもの—続・「死を掛け金に求められる承認」という隘路	単著	2013年5月	『現代思想』(41巻7号)	大谷いづみ	198-209	
40	大谷いづみ	図書紹介: 立岩真也・有馬齊編 生死の語り行い1—尊厳死法・抵抗・生命倫理学—	単著	2013年6月	リハビリテーション(554号)	大谷いづみ	33-34	
41	山本耕平	ソーシャルワークと協同的關係性—語ら／れない当事者に学びつつ—	単著	2013年6月	トラウマティック・ストレス(11巻1号)	山本耕平	35-42	
42	山本耕平	ひきこもる若者を対象とするピアアウトリーチ支援者養成に関する研究	共同	2013年9月	第42回(平成23年度～平成25年度)三菱財団社会福祉事業・研究助成研究成果報告書	研究代表 山本耕平	1-236	
43	山本耕平	五島列島の若者を取り巻く生きづらさと地域—社会参加が困難な状態にある若者が参加できる地域づくり実践へ向けて—	共著	2014年2月	立命館人間科学研究(29号)	岡部茜、青木秀光、深谷弘和、山本耕平	111-122	有
44	櫻谷眞理子	児童養護施設退所者へのアフターケアに関する研究	単著	2014年3月	『立命館産業社会論集』(49巻4号)	櫻谷眞理子		
45	筒井淳也	The Transitional Phase of Mate Selection in East Asian Countries	単著	2013年5月	International Sociology(28巻3号)	Junya Tsutsui	257-276	
46	玉置えみ	The Gendered Effects of Marriage on Health in Japan: Structure, Role Expectations, and Outcomes	単著	2013年	University of Washington Dissertation	Emi Tamaki		



47	玉置えみ	The Gendered Effects of Marriage on Health: Evidence from Japan	単著	2014年3月	東京大学社会科学研究所 パネル調査プロジェクト ディスカッションペーパーシリーズ(74巻)	Emi Tamaki		
48	玉置えみ	Lifetime Prevalence of Mental Disorders among Asian Americans: Nativity, Gender, and Sociodemographic Correlates.	共著	2014年	Asian American Journal of Psychology	Seunghye Hong, Emily Walton, Emi Tamaki, and Janice A. Sabin		
49	徳田完二	大学生の生活習慣と精神的健康に関する予備的研究—生活習慣、レジリエンス、および睡眠について—	単著	2013年7月	立命館人間科学研究(27号)	徳田完二	91-100	有
50	徳田完二	わが国の大学生の生活習慣と精神健康に関わる研究の動向と課題	単著	2014年2月	立命館人間科学研究(29号)	徳田完二	95-110	有
51	徳田完二	事例検討法をめぐる考察—PCAGIPをヒントとして	単著	2014年2月	立命館大学心理・教育相談センター年報(12号)	徳田完二	62-68	
52	徳田完二	治療者として「わたし」をどう生かすか—初学者教育についての覚え書き	単著	2014年2月	立命館大学心理・教育相談センター年報(12号)	徳田完二	69-75	
53	増田梨花	なぜ人々はモンスター化するのか—事例を通して発生のメカニズムとブリーフ的対応を探る—	単著	2013年8月	Brief Therapy Networker Vol. 16.		PP. 17~30	有
54	増田梨花	被災地における「絵本とジャズと和太鼓のコラボレーション2013」—JAZZの爽やかな音色と和太鼓の力強い響きによって膨らんだ絵本の世界—	単著	2014年2月	立命館大学 心理・教育センター年報 第12号		108-112	有
55	村本邦子	子ども虐待予防としての子育て支援	単著	2013年11月	チャイルドヘルス(16巻11号)	村本邦子	22-25	
56	村本邦子	フェミニズムはどこへ—女たちの財産を次世代に受け渡すために	単著	2013年11月	女性ライフサイクル研究(23号)	村本邦子	5-12	
57	村本邦子	日本の児童・女性政策と心理学	単著	2013年12月	心理科学(34巻2号)	村本邦子	24-29	
58	村本邦子	周辺からの記憶1—東日本・家族応援プロジェクト立ち上がる	単著	2013年12月	対人援助学マガジン(4巻3号)	村本邦子	218-225	
59	村本邦子	歴史・平和教育における「二次受傷」をどう考えるか—立命館大学国際平和ミュージアムにおける平和教育の現状と可能性	共著	2014年3月	立命館平和研究(15号)	村本邦子・芳賀淳子	59-68	
60	村本邦子	「南京を思い起こす」7年間の成果と今後に向けて—歴史のトラウマと出会いのワークショップHWH	単著	2014年3月	インクルーシブ社会研究『日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発』(1巻)	村本邦子	148-168	
61	小泉義之	精神と心理の統治	単著	2013年	思想(1066号)		58-76	

62	小泉義之	出来事(事象)としての人生	単著	2013年	哲学雑誌(128巻800号)		56-74	
63	松原洋子	「科学研究費による科学史研究課題採択状況-1949年~1971年を中心に」	単著	2013年9月	『科学史研究』(52巻267号)	松原洋子	134-143	
64	松原洋子	日本における新型出生前検査(NIPT)のガバナンス-臨床研究開始まで	単著	2014年3月	小門穂・吉田一史美・松原洋子『生存学研究センター報告22 生殖をめぐる技術と倫理-日本・ヨーロッパの視座から』	松原洋子	70-86	
65	西成彦	小説の一言語使用問題——中西伊之助から金石範まで——	単著	2014年1月	立命館言語文化研究(25巻2号)	西成彦	107-126	
66	西成彦	「二世文学」の振幅~在日文学と日系文学をとみにみて~	単著	2014年3月	生存学(7巻)	西成彦		
67	渡辺公三	ジャレド・ダイヤモンド著『昨日までの世界』	単著	2013年11月	比較文明(29巻)		139-142	
68	井上彰	"Is Moderate Essentialism Truly Moderate?"	単著	2013年4月	Public Health Ethics(6巻1号)	Akira Inoue	21-27	
69	井上彰	多元主義的リバタリアニズムの哲学的正当化?—森村進『リバタリアンはこう考える』—	単著	2014年3月	『思想』(1079号)	井上彰	64-71	
70	稲葉光行	Possibilities of narrative visualization: Case studies of lesson-learned-oriented archiving for natural disaster	共著	2013年7月	Conference Abstracts of Digital Humanities 2013	Nameda, A., Wakabayashi, K., Nakatsuma, T., Hatano, T., Saito, S., Inaba, M., and Sato, T.	322-326	
71	稲葉光行	子どもを中心とした地域創造のための協働学習—平成25年度八幡子ども会議の事例を中心に—	共著	2014年3月	日本教育工学会研究報告集(14巻1号)	伊藤大輔・稲葉光行	277-284	
72	川那部隆司	教学IRにおける学生調査の手法開発—量的アプローチと質的アプローチを併用した学業成績変化過程の検討—	共著	2013年	立命館高等教育研究(13巻)	川那部隆司・笠原健一・鳥居朋子	61-74	
73	川那部隆司	立命館大学の教学マネジメントにおけるIRの開発と可視化のプロセスに関する考察—デザイン研究の知見を分析視角として—	共著	2013年	立命館高等教育研究(13巻)	鳥居朋子・八重樫文・川那部隆司	75-89	
74	川那部隆司	The examination of institutional research through the lens of action research: Focusing on the IR project at the Institute for Teaching and Learning at Ritsumeikan University	共著	2013年	2013 Second IIAI International Conference on Advanced Applied Informatics	Kawai, T., Torii, T., Kawanabe, T., & Ishimoto, Y.	403-404	
75	松本克美	先物取引被害に対する損害賠償請求権の消滅時効	単著	2013年4月	先物取引被害研究(40号)	松本克美	5-16	
76	松本克美	原子力損害と消滅時効	単著	2013年6月	立命館法学(347号)	松本克美	220-243	

77	松本克美	児童期の性的虐待被害に起因する PTSD 等の発症についての損害賠償請求権の消滅時効・除斥期間	単著	2013年10月	立命館法学(349号)	松本克美	1-43	
78	松本克美	建物の安全と民事責任—判例動向と立法課題—	単著	2013年12月	立命館法学(350号)	松本克美	1753-1793	
79	松本克美	カネミ油症新認定訴訟における時効・除斥期間問題 — 福岡地裁小倉支部 2013・3・21 判決が見落としたもの	単著	2014年1月	環境と公害(43巻3号)	松本克美	39-43	
80	浅田和茂	主観的事実の立証と実体刑法の改正	単著	2013年6月	改革期の刑事法理論 福井厚先生古稀祝賀論文集		496-519	
81	浅田和茂	中山先生の保安処分論	単著	2013年6月	犯罪と刑罰(22号)		83-101	
82	浅田和茂	Probleme strafrechtlicher Sanktionen in Japan	単著	2013年6月	Grundlagen und Dogmatik des gesamten Strafrechtssystems - Festschrift fuer Wolfgang Frisch		1107-1115	
83	浅田和茂	Vergangenheit, Gegenwart und Ausblick in die Zukunft ueber die Aufgabe des japanischen Strafrechts im Vergleich mit dem deutschen Strafrecht	単著	2013年6月	E.Moutsopoulos u.a.(Hrsg.), Gedächtnisschrift zu Ehren von Professor Dr. Christos Dedes		1-9	
84	安田裕子	女性の身体と生殖—進展する生殖補助医療とその選択のなかで	単著	2013年11月	女性ライフサイクル研究所、女性ライフサイクル研究、第23号 フェミニズムはどこへ	女性ライフサイクル研究所(編)	PP. 79-86	無
85	滑田明暢	社会に立ち向かう心理学であるために	共著	2013年12月	心理科学研究会、心理科学、34巻2号	青野篤子・五十嵐靖博・滑田明暢	PP. 1~10	有
86	Takezawa, T.	Perceived relative distance depends on the size ratio of targets in photographs.	単著	2013年4月	<i>Perception</i> , 42(3)		282-293.	有
87	村上慎司	生存と協働を支える所得保障試論	単著	2014年3月	立命館大学生存学研究センター、生存学研究センター報告書21	大谷通高・村上慎司編	PP. 216~238	無
88	織田涼	心理的距離による検索容易性効果の調整過程の検討	単著	2013年7月	立命館人間科学研究、第27号		101-111	有
89	山崎優子	高齢者の自己や他者に対する信頼感が事件被害のリスク認知に及ぼす影響	共著	2014年3月	立命館大学人間科学研究所、立命館人間科学研究、29	仲真紀子・石崎千景・サトウタツヤ	PP. 3~17	有
90	山崎優子	死刑賛否に影響する要因と死刑判断に影響する要因	共著	2014年3月	立命館大学人間科学研究所、立命館人間科学研究、29	石崎千景・サトウタツヤ	PP. 81~94	有
91	山崎優子	死刑判断に関する実証的考察	共著	2013年10月	法と心理学会、法と心理、13	綿村英一郎・板山昇・佐伯昌彦・吉井匡	PP. 98~103	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	サトウタツヤ	Trajectory Equifinality Approach: Toward a Generalization and	2013年5月	The workshop on Idiographic Science: 'Methods of Psychological Intervention'	SATO, Tatsuya

		methodology in economic psychology.			
2	サトウタツヤ	Possibilities of narrative visualization: Case studies of lesson-learned-oriented archiving for natural disaster.	2013年7月	Digital Humanities 2013.	Nameda, A., Wakabayashi, K., Nakatsuma, T., Hatano, T., Saito, S., Inaba, M. and Sato, T.
3	サトウタツヤ	The effect of defendant's nationality on jury decision making: A comparison of the crime	2013年9月	The European Association of Psychology and Law 2013	Nakata, Y. and Sato, T
4	宇都宮博	Individual differences in evaluation of married life among middle-aged couples	2013年7月	The 16th biennial meeting of the International Society for the Study of Individual Differences	
5	岡本直子	幼児期におけるファンタジーの意味② -遊びに焦点を当てて-	2013年7月	日本モンテッソーリ協会(学会)第46回全国大会	岡本直子
6	岡本直子	「投影ドラマ」から得られる内的体験-パーソナリティとの関連性および体験内容に着目して-	2013年8月	日本心理臨床学会第32回大会	岡本直子
7	岡本直子	臨床心理学と他領域の架橋としての質的研究(シンポジウム企画)	2013年8月	日本質的心理学会第10回大会	岡本直子
8	岡本直子	臨床心理学と他領域との架橋となる調査方法の模索-調査の枠組みで関係性やプロセスをとらえる試み(シンポジウム話題提供)	2013年8月	日本質的心理学会第10回大会	岡本直子
9	岡本直子	箱庭制作から得られる心的体験とパーソナリティの関連性	2013年9月	日本心理学会第77回大会	岡本直子
10	春日井敏之	不登校をともに生きる-単位制課程における包括的生徒支援の試み	2013年9月	日本臨床教育学会第3回研究大会(兵庫)	春日井敏之、安藤敦子、野本実希
11	星野祐司	画像の記憶における適及的效果	2013年9月	日本心理学会第77回大会(発表論文集, 3EV-119)	星野祐司
12	星野祐司	画像処理に埋め込まれた記号的処理: 切り取ることの意味	2013年9月	日本心理学会第77回大会	星野祐司
13	星野祐司	潜在学習が運動主体感に与える影響	2013年12月	日本基礎心理学会第32回大会	43. 吉田史明・星野祐司
14	星野祐司	意味類似性が学習直後遅延後の順序の記憶に及ぼす影響	2013年12月	日本基礎心理学会第32回大会	都賀美有紀・星野祐司
15	東山篤規	Anisotropy of texture gradient as depth cue	2013年8月	The 36th Annual Meeting of European Conference on Visual Perception	東山篤規・山崎校
16	東山篤規	視覚的速度に及ぼす頭の位置と歩行の効果	2013年11月	関西心理学会第125回大会	山崎校・東山篤規
17	藤健一	Skinner と Anger による初期累積記録器(1948年頃)の動作模型の製作	2013年	関西心理学会 第125回大会発表論文集	
18	服部雅史	The brand can interfere with retrospective interpretations: Effects of labels and conceptual information on preference	2013年6月	日本認知心理学会第11回大会	Jo, I., & Hattori, M.
19	服部雅史	Unrecognized hints facilitate insight problem solving performance	2013年8月	The 9th International Conference on Cognitive Science	Orita, R., & Hattori, M.

		under dual task load			
20	服部雅史	肯定と否定の非対称性：確率推論課題における図地フレーミングの実験的検討	2013年9月	日本認知科学会第30回大会	服部雅史
21	服部雅史	因果帰納における不生起事象の重みづけ	2013年9月	日本心理学会第77回大会	服部郁子・服部雅史・高橋達二
22	服部雅史	認知的負荷が洞察をもたらすとき：洞察問題解決におけるブライミングと二重課題の効果	2013年9月	日本心理学会第77回大会	服部雅史・織田 涼
23	北岡明佳	盲点における運動線分の補完の際の事象関連電位の測定	2013年7月	2013年日本視覚学会夏季大会	蘭悠久・青野直也・福田玄明・植田一博・北岡明佳
24	北岡明佳	特別講演 「錯視の視覚科学」	2013年8月	視覚科学フォーラム第17回研究会	北岡明佳
25	北岡明佳	The color-dependent Fraser-Wilcox illusion: motion direction is reversed depending on luminance	2013年8月	"Illusions and delusions" in the Barn	Kitaoka, A.
26	北岡明佳	Influence of saccade direction on illusory motion	2013年8月	36th European Conference on Visual Perception	Matsushita, S., Muramatsu, S., and Kitaoka, A.
27	北岡明佳	Reversal of the color-dependent Fraser-Wilcox illusion under a dark condition	2013年8月	36th European Conference on Visual Perception	Kitaoka, A.
28	北岡明佳	Drifting triangles illusion and its enhancement by shaking or blinking	2013年8月	36th European Conference on Visual Perception	Yanaka, K., Hilano, T., and Kitaoka, A.
29	北岡明佳	Traffic jam: a new method to reduce drivers' illusion of the road slope by drawing stripe patterns on the side walls.	2013年8月	36th European Conference on Visual Perception	Tomoeda, A., Tsuinashi, S., Kitaoka, A., and Sugihara, K.
30	北岡明佳	'Face inversion effect' on perception of the vertical gaze direction.	2013年8月	36th European Conference on Visual Perception	Stevanov, J., Uesaki, M., Kitaoka, A., Ashida, H., and Hecht, H.
31	北岡明佳	色依存性の静止画が動いて見える錯視	2013年9月	視知覚の現象・機能・メカニズム — 生理学的、心理物理学的、計算論的アプローチ	北岡明佳
32	北岡明佳	錯視と脳と視覚心理学	2013年9月	京都産業大学コンピュータ理工学部シンポジウム	北岡明佳
33	北岡明佳	Mechanisms and functions of visual illusions	2013年11月	Joint Workshop on Machine Perception and Robotic	Akiyoshi Kitaoka
34	北岡明佳	視線方向の知覚に及ぼす面の傾きと鼻の向きの効果	2013年11月	第18回日本顔学会大会(フォーラム顔学2013)	菊地祥子・北岡明佳
35	北岡明佳	錯視とは何か	2013年11月	日本心理学会公開シンポジウム「錯視の科学」(オルガナイザー: 杉山尚子・北岡明佳)	北岡明佳
36	北岡明佳	街角錯視	2013年11月	建築学会: 建築空間における色彩・質感の視覚効果定量化WG	北岡明佳
37	北岡明佳	色の錯視いろいろ	2013年12月	日本色彩学会東海支部講演会	北岡明佳
38	北岡明佳	色依存の静止画が動いて見える錯視	2013年12月	共同プロジェクト研究会「物体の表面属性の視知覚に関わる脳内メカニズムの研究」	北岡明佳
39	北岡明佳	工業製品における錯視	2014年2月	講演会	北岡明佳
40	北岡明佳	応用錯視学の展望	2014年3月	第1回応用錯視学研究会	北岡明佳

41	北岡明佳	色依存で照明依存の静止画が動いて見える錯視	2014年3月	第7回錯覚ワークショップ	北岡明佳
42	北岡明佳	色変化依存の運動錯視	2014年3月	第47回知覚コロキウム	北岡明佳
43	北岡明佳	錯視のお話&体験工作	2014年3月	講演会	北岡明佳
44	廣井亮一	加害者家族へのアプローチ	2013年6月	家族心理士・家族相談士資格認定機構主催 第28回研修会	
45	廣井亮一	「いじめ・体罰問題への法と家族療法によるアプローチ」	2013年6月	日本家族研究・家族療法学会, 第30回東京大会,	
46	廣井亮一	「司法臨床としての情状心理鑑定—犯罪動機の解明・更生の方法等情状弁護の深化に向けて」	2013年8月	日本弁護士連合会 近畿地区弁護士夏期研修	廣井亮一
47	廣井亮一	「司法臨床の展開(第3報)—法心理・司法臨床家の養成をめぐる」	2013年10月	法と心理学会	
48	山本博樹	Do headings really support strategy use by unskilled college students during textbook learning?	2013年7月	121th annual convention of American Psychological Association.	
49	山本博樹	少子高齢社会を乗り越える教育実践心理学のあり方とは—何がリサーチクエスチョンか?—	2013年8月	日本教育心理学会第55回大会	吉田甫・川那部隆司・山本博樹・安永悟・伊藤貴昭・山口豊一・佐久間尚子・古橋啓介
50	山本博樹	高校「倫理」教科書の読解学習と学習支援(4)—学習目標の達成を規定するプロセス—	2013年8月	日本教育心理学会第55回大会	山本博樹・織田涼
51	山本博樹	本当に大学生は見出しから恩恵を受けているのか?(1)—PCを用いた方略利用のオンライン評価の試み—	2013年8月	日本教育心理学会第55回大会	織田涼・山本博樹
52	山本博樹	本当に大学生は見出しから恩恵を受けているのか?(2)—未熟達な大学生に対するオンラインな評価—	2013年9月	日本心理学会第76回大会	山本博樹
53	山本博樹	学習支援研究に基づく説明書づくりの捉え直し	2013年10月	テクニカルコミュニケーションシンポジウム2013	山本博樹
54	山本博樹	技術文書からユーザーの実感を生み出すマニュアルを導き出すには?	2013年10月	テクニカルコミュニケーションシンポジウム2013	森口稔・石川秀明・黒田聡・山本博樹・福岡俊治
55	谷晋二	Using Acceptance and Commitment Therapy for parents of children with developmental disabilities	2013年7月	The Association for Contextual Behavioral Science, the 11th Annual World Conference	Kotomi Kitamura, Shinji Tani, Toshiko Okamoto, and Akihiro Okamoto
56	谷晋二	The ACT practice for the mother of a child having Asperger syndrome disordered (ASD): Focusing on relationship with spouse	2013年7月	The 11th World Annual Conference of the Association for Contextual Behavioral Science	TANI Shinji
57	谷晋二	子どもへの認知行動療法の適用の可能性	2013年8月	日本行動療法学会 第39回大会 シンポジウム	
58	谷晋二	伴走的支援グループ	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	
59	土田宣明	社会的包摂に向けた予見的支援の研究	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	

60	土田宣明	抑制機能の生涯発達の变化を探る(ラウンドテーブル・話題提供)	2014年3月	日本発達心理学会第25回大会	土田宣明
61	土田宣明	地域での高齢者のうつ・認知機能低下予防の心理的介入—生きがい創造による高齢者の発達支援の可能性を探る—(シンポジウム・話題提供)	2014年3月	日本発達心理学会第25回大会	土田宣明
62	土田宣明	高齢者の運動抑制-反応タイプと音刺激の影響	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	吉田甫、大川一郎
63	望月昭	プロファイリングからポートフォリオへ	2013年11月	対人援助学会 第5回年次大会、立命館大学	中鹿直樹・尾西洋平・小島遼・イムヒョンジョン・土田菜穂
64	望月昭	Café Rits: ポートフォリオを構築するための模擬喫茶店舗	2013年11月	対人援助学会 第5回年次大会、立命館大学	尾西洋平・井上菜・小島遼・中鹿直樹・土田菜穂・友田英華
65	望月昭	模擬喫茶店舗の実習を通して発見された障害がある高等部生徒における伝票計算のためのカイゼン	2013年11月	対人援助学会 第5回年次大会、立命館大学	井上菜・尾西洋平・小島遼・中鹿直樹・土田菜穂・友田英華
66	望月昭	継続的キャリア支援としての情動的連携:「情報バンク」「シミュレーションショップ」の構造とその対人援助学的機能	2013年11月	対人援助学会 第5回年次大会ワークショップ、立命館大学	上田征樹・中鹿直樹・朝野浩・土田菜穂
67	矢藤優子	Comparing concentration and attention between French and Japanese students: A new methodological approach to the d2-R test	2013年4月	Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity	Yato,Y., Hirose,S., Jobert,M., Mesmin,C., Walon, P.
68	矢藤優子	Self-assertion and Social acceptance of young child who attends a foreign country's kindergarten	2013年5月	Pacific Rim International Conference on Disability and Diversity	Shohei Hirose and Yuko Yato
69	矢藤優子	Changes in characteristic of self-assertion based on age by observation of young children	2013年7月	The 13th European congress of Psychology	Hirose, S., Yato, Y.
70	矢藤優子	Japanese preschoolers' drawing process and performance on Bender Gestalt test as analyzed by use of a digital pen	2013年7月	The 13th European congress of Psychology	Yato, Y., Hirose S., Jobert, M., Mesmin, C., Wallon, P.
71	矢藤優子	幼児におけるうそ行動と誤信念理解との関連	2013年9月	日本心理学会第77回大会	藤戸麻美・矢藤優子
72	矢藤優子	保育園年長児におけるオートバイを使用した教育実践に関する実証的研究	2013年9月	日本心理学会第77回大会	矢藤優子・藤戸麻美・杉本五十洋
73	矢藤優子	外国の幼稚園に通う幼児の自己主張と社会的受容	2013年9月	日本心理学会第77回大会	廣瀬翔平・矢藤優子
74	矢藤優子	縦断観察による年少クラスの幼児の自己主張の発達の变化	2014年3月	日本発達心理学会第25回大会	廣瀬翔平・矢藤優子
75	矢藤優子	d2-R テストを用いた日本人小学生の注意・集中力の測定・ADHD-RS との関連について	2014年3月	日本発達心理学会第25回大会	矢藤優子・廣瀬翔平・Jobert Matthieu・Mesmin Claude・Wallon Philippe
76	中鹿直樹	知的障がいのある高等部生徒の就労実習における職業	2013年7月	日本行動分析学会 第31回大会	尾西洋平・小島遼・土田菜穂・望月昭

		行動への自発的関与を促進する条件			
77	中鹿直樹	プロファイリングからポートフォリオへ：学生ジョブコーチの実践から支援をつないでいくための「情報」について考える	2013年11月	対人援助学会 第5回年次大会	尾西洋平・小島 遼・林 炫廷・望月 昭・土田菜穂
78	中鹿直樹	大学内模擬店舗のデザインと運営・障害者の継続的支援のためのポートフォリオ作成	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	望月昭、滑田明暢、尾西洋平、小島遼
79	松田亮三	対人支援における<学=実>連環型研究の方法論	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	
80	松田亮三	医療の人口の健康への寄与—二つの接近法の概観	2013年7月	第54回日本社会医学学会総会	松田亮三
81	松田亮三	Learning from variations in institutions and politics : the case of social health insurance in France and Japan	2013年7月	"Recent change in social health insurance" panel (Claus Wendt), The 1st International Conference of Public Policy (26 June-28 June 2013)	Matsuda, R. and Steffen, M.
82	松田亮三	グローバル化— 医療政策の新しい課題	2013年9月	日本医療経済学会・第37回学術研究大会	松田亮三
83	松田亮三	Policies on Diabetes and Public Health System of Japan: a situational analysis	2013年10月	First UK-Japan Conference on Public Health System	Ryozo Matsuda
84	松田亮三	糖尿病対策と公衆衛生機構—日本の現状分析	2013年10月	第1回日英公衆衛生機構比較研究会議	松田亮三
85	秋葉武	日本のCSR史	2013年7月	立命館大学コリア研究センター・ハンギョレ経済研究所合同研究会	秋葉 武
86	秋葉武	過疎地における地域活性化—NPO 法人砂浜美術館を事例として—	2013年8月	JC 総研 第26回公開研究会	秋葉 武
87	秋葉武	Public Procurement in Japan	2013年10月	The 4th Asia Future Forum /Era of Inclusive Growth: Innovation of Enterprise and Society (at Lotte Hotel Seoul)	AKIBA, Takeshi
88	秋葉武	営利セクターと非営利セクターの協働	2013年11月	世界社会的経済フォーラム2013 分科会 (ソウル市主催 於:ソウル市役所ホール)	秋葉 武
89	大谷いづみ	問いとともにより障害を生きる—QOL概念の二重性	2014年2月	第22回高度先進リハビリテーション医学研究会	大谷いづみ
90	小澤亘	高齢者の見守りと民生委員の活動研究会編『民生児童委員調査報告書—2012年京都市・宇治市・八幡市悉皆調査』	2013年8月	高齢者の見守りと民生委員の活動研究会	高齢者の見守りと民生委員の活動研究会
91	小澤亘	“ Action Research to build a Transnational Volunteer Support Network for Foreign Students ’ Education: Possibility of Digital Book System as a Tool for Volunteer Linkage”	2013年10月	ISTR (International society for third sector research) The 8th Asia-Pacific Regional Conference in Seoul	ISTR (International society for third sector research) The 8th Asia-Pacific Regional Conference in Seoul
92	荒木徳積	自閉症スペクトラム児・者の伴走的支援-10年間の治療教育プログラム開発の試	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	竹内謙彰



		み-			
93	OZAWA, Wataru	Action Research to build a Transnational Volunteer Support Network for Foreign Students' Education: Possibility of Digital Book System as a Tool of Volunteer Linkage	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	Yomori Ayumi
94	竹内謙彰	自閉症スペクトラム児の集団活動を援助する療育プログラム開発(5)ー小学校高学年期:集団を意識した「なりきる遊び」	2014年3月	日本発達心理学会第25回大会	荒木久理子・河邊光・山口真名美・重富紗希・中川万幾子・藤原さつき・野村朋・荒木美知子・竹内謙彰・荒木穂積・松島明日香
95	竹内謙彰	自閉症スペクトラム障害児の遊びと集団活動を援助する療育プログラム開発(6)ー中学・高校生期:集団を意識したルール作り	2014年3月	日本発達心理学会第25回大会	鏡原崇史・山路美波・小林里帆・松元佑・荒木穂積・竹内謙彰
96	筒井淳也	"No One Left Behind"? Youth Employment in Japan	2013年4月	The 2013 Annual Meeting of Population Association of America	Eric FONG and Junya TSUTSUI
97	筒井淳也	国際労働のなかの結婚と女性労働	2013年10月	明治大学ジェンダーセンター	筒井淳也
98	筒井淳也	未婚化についての理論および実証	2013年10月	経団連21世紀政策研究所・少子化対策研究会	筒井淳也
99	玉置えみ	不妊の生物人口学的解明:パイロット調査の設計と実施	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	小西祥子
100	石倉康次	災害時における社会福祉労働者の生存・生活保障実践に関する研究ー宮城県の社会福祉労働者へのインタビュー調査を通してー(中間報告)	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	池田さおり、北垣智基、荒川亜樹、石川由美
101	野田正人	これからの少年センターのあり方	2013年4月	大津少年センター50周年記念講演 同センター機関誌『補導ーみちるるべ』40~45頁に要旨掲載	
102	野田正人	「障がい者審査会」滋賀県からの報告	2013年8月	日本司法福祉学会第14回全国大会シンポジウム	野田正人
103	野田正人	いじめ問題と生徒指導上の実践的課題	2013年9月	日本生活指導学会第31回研究大会	
104	野田正人	児童自立支援施設の今日的課題ー社会的養護の担い手としてー	2013年10月	日本児童青年精神医学会総会	
105	野田正人	いじめ防止対策推進法について	2013年10月	大阪府教育委員会スクールソーシャルワーカー連絡会	
106	野田正人	発達障害だと思っただけどー包括的アセスメントによる子ども理解ー	2014年2月	故郷復興を目指す先生を元気にする集い in 仙台	
107	中村正	社会的包摂に向けた修復的支援の研究	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	
108	増田梨花	絵本を媒介にしたピア・サポートトレーニングとピ	2013年10月	日本ピア・サポート学会 第12回総会・研究大会 発表 (大会論文集 P.26)	

		ア・サポート活動 —登校 渋りの中学生に対する試み から—			
109	増田梨花	ピア・サポートプログラム を活かした高大連携の実践	2013年10月	日本ピア・サポート学会 第12回総 会・研究大会 発表 (大会論文集 p.38)	春日井敏之 小池英梨子 白川愛子 鄭平陽 山中裕美子
110	増田梨花	養成講座にむけてのミニ・ ピア・サポート活動	2013年10月	日本ピア・サポート学会 第12回総 会・研究大会 発表 (大会論文集 p.39)	石谷泰枝 近藤充代 山口権治
111	増田梨花	私立の全日制A高等学校に おけるカウンセリンググル ーム(びあっくルーム)の取 り組み	2013年12月	第60回日本学校保健学会 総会・研修 大会 発表 (大会論文集 p.122)	松下健 松田東子 篠村健人 小袋伸 枝 五十嵐恵子 遠藤志乃 工藤里佳 子 小沢友紀雄
112	増田梨花	高校生のメンタルヘルスに 関する要因の検討—気分調 査票を用いて—	2013年12月	第60回日本学校保健学会 総会・研修 大会 発表 (大会論文集 p.121)	松下健 五十嵐恵子 遠藤志乃 工藤 里佳子 上村晴彦 森美樹 小沢友紀雄
113	増田梨花	AEDの問題解決型(シミュ レーション)が学校現場に 必要であるかという検討	2013年12月	第60回日本学校保健学会 総会・研修 大会 発表 (大会論文集 p.153)	松下健 五十嵐恵子 遠藤志乃 工藤 里佳子 上村晴彦 森美樹 小沢友紀雄
114	増田梨花	高校生各学年の健診時血圧 値の検討	2013年12月	第60回日本学校保健学会 総会・研修 大会 発表 (大会論文集 p.140)	松下健 五十嵐恵子 遠藤志乃 工藤 里佳子 上村晴彦 森美樹 小沢友紀 雄
115	増田梨花	学校保健室における携帯型 心電計(家庭用心電計)の 使用経験	2013年12月	第60回日本学校保健学会 総会・研修 大会 発表 (大会論文集 p.139)	松下健 五十嵐恵子 遠藤志乃 工藤 里佳子 上村晴彦 森美樹 小沢友紀雄
116	増田梨花	学校生活総合アンケート調 査による高校生活の食生活 の分析と対策	2013年12月	第60回日本学校保健学会 総会・研修 大会 発表 (大会論文集 p.134)	松下健 五十嵐恵子 遠藤志乃 工藤 里佳子 上村晴彦 森美樹 小沢友紀雄
117	増田梨花	高校生の学校保健教育にお ける問題解決型学習の実践	2013年12月	第60回日本学校保健学会 総会・研修 大会 発表 (大会論文集 p.125)	松下健 五十嵐恵子 遠藤志乃 工藤 里佳子 上村晴彦 森美樹 小沢友紀雄
118	村本邦子	DVシェルターとNPOの 協働から、組織・チームづ くりを目指して—派遣プ ログラムの実施・継続を通 じて	2013年7月	日本コミュニティ心理学会 第16回研 究大会	村本 邦子、林 久美子、渡邊 佳代、田 丸 加奈恵、鷲岡 ゆき、引地 綾 佐野 泉、根本 保子、高島克子
119	村本邦子	DV被害者への支援におけ る協働と連携	2013年9月	日本質的心理学会第10回大会	
120	村本邦子	”Healing Wound of History” 5年の試みを振 り返って	2013年9月	国際シンポジウム『アジアの戦後世代 の歴史平和教育をつくる』	
121	村本邦子	表現療法を用いた歴史のト ラウマの世代間連鎖と和解 修復の試み—「南京を思い 起こす」5年間の試みから	2013年10月	国際表現性心理療法シンポジウム	村本邦子
122	村本邦子	暴力の世代間連鎖を断ち切 る—日本・中国の戦後世 代による「和解」ワークシ ョップの試みから	2013年11月	日本平和学会2013年度秋季大会	村本邦子、村川治彦、小田博志

123	松原洋子	Travelling in Search of Relatedness: Globalization and Reproduction(Chair and Comment)	2013年5月	Travelling in Search of Relatedness: Globalization and Reproduction	Charlotte Kroløkke, Karen Hvidtfeldt Madsen
124	松原洋子	「大学薬学部のコアカリキュラムと薬害問題・倫理教育の展開」	2013年8月	「薬害教育」に向けた多声的「薬害」概念の提起 (JSPS 科研費: 25285163) 研究会	松原洋子
125	松原洋子	「日本の高等教育における電子書籍アクセシビリティの課題—テキストデータの利用を中心に」	2013年9月	科学社会学会第2回年次大会	松原洋子
126	渡辺公三	人類学的思考の戦場	2013年6月	人類学的思考の沃野: 山口昌男追悼 AA 研シンポジウム	
127	渡辺公三	界面としての布: クバ王国 (コンゴ) ラフィア布の世界	2013年6月	草の布: アジア、アフリカ、日本の植物由来のテキスタイルや生活の道具を見る、知る、楽しむ6日間	
128	渡辺公三	対談 山口昌男とその時代 (今福龍太氏との対談)	2013年10月	朝日カルチャースクール	
129	渡辺公三	包む身体 包まれる身体～言葉によらないコミュニケーションの次元	2013年12月	パフォーマンススキップ・トーキョーフォーラム: 社会性とは何か? コミュニケーションと身体感覚	
130	井上彰	分析的政治哲学とロールズ『正義論』	2013年5月	第20回政治思想学会研究大会	井上彰
131	井上彰	Taming Luck Egalitarianism Successfully?	2013年8月	Justice, Taxation, and Social Philosophy Conference	Akira Inoue
132	井上彰	規範理論と実証理論との対話—リバタリアン・パターンリズムを手がかりに—	2013年11月	日本法哲学会2013年度学術大会	井上彰・宇田川大輔・清水和巳・若松良樹
133	小泉義之	社会的包摂と支援に関する基礎的研究	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	
134	稲葉光行	Collaborative game playing support by learning of Japanese traditional culture in the 3D metaverse	2013年5月	The international Conference on Japan Game Studies 2013	Michiru Tamai, Mitsuyuki Inaba, Koichi Hosoi, Akinori Nakamura, Masayuki Uemura, and Ruck Thawonmas,
135	稲葉光行	ある公職選挙法違反事件に関する心理鑑定の検討	2013年6月	第60回関西白自研究会	山田早紀・村山満明・稲葉光行・脇中洋
136	稲葉光行	Possibilities of narrative visualization: Case studies of lesson-learned-oriented archiving for natural disaster	2013年7月	Digital Humanities 2013	Akinobu Nameda, Kosuke Wakabayashi, Takuya Nakatsuma, Tomomi Hatano, Shinya Saito, Mitsuyuki Inaba, and Tatsuya Sato
137	稲葉光行	公判廷における尋問者と供述者のディスコミュニケーション	2013年10月	法と心理学会第14回全国大会ワークショップ	稲葉光行
138	稲葉光行	高度情報化社会における法心理学領域の展望	2013年10月	法と心理学会第14回全国大会ワークショップ	稲葉光行
139	稲葉光行	法心理・司法臨床センターにおける法情報学への取り組み	2013年10月	立命館グローバル・イノベーション研究機構シンポジウム	稲葉光行
140	稲葉光行	法情報学が拓くドキュメント・マネジメントの未来	2013年10月	立命館グローバル・イノベーション研究機構シンポジウム	稲葉光行
141	稲葉光行	Cultural Learning through Virtual Museum: Implementing Collaborative and Situated Learning	2013年10月	The 2nd Yeongwol International Museum Forum 2013	Mitsuyuki Inaba

		Environment for Japanese Culture in 3D Metaverse			
142	稲葉光行	Socio-Cultural Issues in Forensic Communication: A Case Study on Textual Analysis of Confession Statement and Trial Protocol,	2013年10月	The 7th East Asian Law and Psychology Symposium	Mitsuyuki Inaba
143	稲葉光行	Socio-Cultural Issues in Forensic Communication and Informational Justice	2013年11月	International Workshop on Informational Justice	Mitsuyuki Inaba and Saki Yamada
144	稲葉光行	法学教育における司法情報コミュニケーション学の可能性	2013年11月	情報ネットワーク法学会第13回研究大会	稲葉光行
145	稲葉光行	Implementing Collaborative Serious Game for Situated Learning of Japanese Culture in 3D Metaverse	2013年12月	Pacific Neighborhood Consortium (PNC) Annual Conference 2013	Mitsuyuki Inaba
146	稲葉光行	三次元表現による集団討議プロセス可視化ソリューションの可能性	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会	上村晃弘・斎藤進也・若林宏輔・山崎優子・稲葉光行・サトウタツヤ
147	稲葉光行	インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究を展望する	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会	稲葉光行・松田亮三・土田宣明・谷晋二・中村正・小泉義之
148	稲葉光行	子どもを中心とした地域創造のための協働学習ー平成25年度八幡子ども会議の事例を中心にー	2014年3月	日本教育工学会「教師教育と授業研究/一般」研究会	伊藤大輔・稲葉光行
149	稲葉光行	Forming a community of children-centered collaborative activity for social improvement: a case study of Yawata Children's Conference	2014年3月	UC Links Annual Conference 2014	Mitsuyuki Inaba
150	稲葉光行	Developing Collaborative Serious Game for Japanese Cultural Learning in 3D Metaverse	2014年3月	Digital Humanities Australasia 2014	Mitsuyuki Inaba, Michiru Tamai, Ruck Thawonmas, Koichi Hosoi, Akinori Nakamura, and Masayuki Uemura
151	稲葉光行	インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究を展望する	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	
152	川那部隆司	Exploratory Research on Learning Outcomes of Student Athletes in Japan	2013年5月	AIR Annual Forum 2013	Kawanabe, T. & Torii, T.
153	川那部隆司	An examination of assistance methods to facilitate preschoolers' self-control of movement: Focusing on their consciousness of motor speed inhibition	2013年9月	16th European Conference on Developmental Psychology	Shibuya, I. & Kawanabe, T.
154	松本克美	法曹養成教育における法と心理学の連携ー臨床心理の成果の導入の試みー	2013年4月	臨床法学教育学会第6回大会	松本克美
155	松本克美	建築瑕疵の不法行為責任と除斥期間	2013年5月	欠陥住宅全国ネット第34回大会	松本克美

156	松本克美	法制審議会民法(債権関係)部会『中間試案』の時効法改革案へのコメント	2013年6月	立命館大学・民事法研究会	松本克美
157	松本克美	住宅の安全と法—企画趣旨・私法の観点から—	2013年10月	日本土地法学会2013年大会	松本克美
158	松本克美	企画趣旨 — ワークショップ・損害賠償請求権と時効・除斥期間問題への法と心理からのアプローチ—訴訟継続中のカネミ油症新認定訴訟を中心に—	2013年10月	法と心理学会第14回大会	松本克美
159	篠田博之	人間視覚系の機能と特徴に基づいた照明応用技術	2013年6月	照明技術講演会	篠田博之
160	篠田博之	人の視覚特性にもとづく光応用技術	2013年7月	フォトニクス技術フォーラム H25 年度第1回光情報技術研究会	篠田博之
161	篠田博之	Spatial distribution of attention in three dimensional space	2013年8月	European Conference on Visual Perception 2013 (ECPV2013)	Seya, Y., Yamaguchi, M., & Shinoda, H.
162	篠田博之	3次元空間における注意の分布	2013年9月	日本心理学会第77回大会	瀬谷安弘, 篠田博之
163	篠田博之	色モード境界輝度測定法を用いた有彩家具による空間の明るさ感への影響の測定	2013年9月	第15回日本感性工学会大会	荒川 溪, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
164	篠田博之	カラーネーミング法を用いた異なる照明環境間での色恒常性の定量化	2013年9月	第15回日本感性工学会大会	中川 亮, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
165	篠田博之	散乱光強度と空間解像度による水晶体のHaze 値推定法	2013年9月	第15回日本感性工学会大会	鮎川 翔一, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
166	篠田博之	参照マッチング法を用いた窓面採光時の照明空間の明るさ感評価	2013年9月	第15回日本感性工学会大会	田中 亮介, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
167	篠田博之	デジタルカメラと Kinect を用いた三次元での色彩分布計測法の開発	2013年9月	第15回日本感性工学会大会	西田 卓真, 瀬谷 安弘, 篠田 博之
168	篠田博之	色モード境界輝度測定法を用いた有彩家具による空間の明るさ感への影響の測定	2013年11月	Optics & Photonics Japan 2013	荒川 溪, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
169	篠田博之	カラーネーミング法による異なる照明環境での色恒常性成立度合測定	2013年11月	Optics & Photonics Japan 2013	中川 亮, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
170	篠田博之	擬似白内障における散乱光の空間分解能への影響	2013年11月	Optics & Photonics Japan 2013	鮎川 翔一, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
171	篠田博之	昼光が入射する空間での明るさ感評価	2013年11月	Optics & Photonics Japan 2013	田中 亮介, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
172	篠田博之	三次元位置情報を付加した輝度・色彩分布計測	2013年11月	Optics & Photonics Japan 2013	西田 卓真, 瀬谷 安弘, 篠田 博之
173	篠田博之	生態学的妥当なオプティカルフロー刺激を用いたベクションの検討	2013年11月	Optics & Photonics Japan 2013	辻 貴之, 瀬谷 安弘, 篠田 博之
174	篠田博之	色モード境界輝度測定法を用いた色彩による空間の明るさ向上効果の測定	2013年11月	日本色彩学会第1回秋の大会13	荒川 溪, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
175	篠田博之	異なる照明環境間でのカラーネーミングによる色恒常性成立度合の測定	2013年11月	日本色彩学会第1回秋の大会13	中川 亮, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
176	篠田博之	擬似白内障被験者における散乱光の空間解像力への影響	2013年11月	日本色彩学会第1回秋の大会13	鮎川 翔一, 篠田 博之, 瀬谷 安弘
177	篠田博之	参照マッチング法を用いた昼光が入射する空間での明るさ感評価	2013年11月	日本色彩学会第1回秋の大会13	田中 亮介, 篠田 博之, 瀬谷 安弘

178	篠田博之	3次元での輝度・色度計測のための2画像間の画像合わせ手法	2013年11月	日本色彩学会第1回秋の大会'13	西田 卓真, 瀬谷 安弘, 篠田 博之
179	篠田博之	Vision, Light, and Color-mechanism of seeing and techniques for displaying-	2013年12月	The 1st Asia Color Association Conference (ACA2013)	Hiroyuki Shinoda
180	篠田博之	光と視覚 一色を正しく効果的に見せる技術と6W2Hー	2014年3月	第16回カラーコーディネーターシンポジウム	篠田博之
181	福田茉莉	情報の有機的連関による社会的支援の可能性: コミュニケーション・ツールとしてのアーカイブ	2014年1月	人間科学研究年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	滑田明暢、山田早紀
182	Yasuda, Y.	Infertility and Health: In the viewpoint of conversion of value on life (Individual Poster)	2013年8月	the 5th Asian Congress of Health Psychology, Daejeon, Korea	
183	安田裕子	心理臨床におけるTEMの可能性—個人の変容をどのように捉えるか(自主企画シンポジウムでの司会と指定討論)	2013年8月	日本心理臨床学会第32回秋季大会、パシフィコ横浜	長谷川恭子・和田美香・廣瀬太介・佐藤紀代子
184	安田裕子	時間と場で、成りゆく生—スポーツ・看護・経営に広がるTEAの可能性(大会準備委員会企画シンポジウムの企画)	2013年8月	日本質的心理学会第10回大会、立命館大学	木戸彩恵・林晋子・大川聡子・豊田香・森直久
185	安田裕子	臨床心理学と他領域の架橋としての質的研究(大会準備委員会企画シンポジウムでの司会と話題提供)	2013年8月	日本質的心理学会第10回大会、立命館大学	岡本直子・松嶋秀明・荘島幸子・能智正博
186	安田裕子	DV被害者への支援における協働と連携(一般公開シンポジウムでの企画と司会)	2013年9月	日本質的心理学会第10回大会立命館大学	貝原己代子・村本邦子・吉田容子・吉浜美恵子
187	安田裕子	文化心理学、活動理論、TEMによるケース・フォーミュレーション豊饒化の試み(公募シンポジウムでの企画と話題提供)	2013年9月	日本心理学会第77回大会、札幌コンベンションセンター	サトウタツヤ・松嶋秀明・森直久
188	安田裕子	犯罪被害者をとりまく問題—臨床心理学、法社会学、法心理学からの検討(ワークショップでの企画と報告)	2013年10月	法と心理学会第14回大会、九州大学	山崎優子・林久美子・佐伯昌彦・福井厚・綿村英一郎
189	Yasuda, Y.	The construction of the cooperation system about the support for victims suffered from domestic violence by their husbands: With action research for supporters (Individual Poster)	2013年10月	the 8th European Congress on Violence in Clinical Psychiatry, Ghent, Belgium	
190	安田裕子	法/医療現場における質的研究のあり方とTEMの位置づけ(ポスター発表)	2013年11月	対人援助学会第5回大会、立命館大学	サトウタツヤ・福田茉莉・木戸彩恵
191	安田裕子	対人援助の教育実践—学び手の語り(ナラティブ)と行為(アクション)をむすぶ、協働(コラボレーション)を促す(企画シンポジウムの)	2013年11月	対人援助学会第5回大会、立命館大学	サトウタツヤ・松嶋秀明・西垣悦代・森岡正芳

		企画、司会)			
192	安田裕子	ひきこもりの家族支援— TEM によってシステムに 接近する試み (企画ワーク ショップ企画、司会)	2013 年 11 月	対人援助学会第 5 回大会、立命館大学	サトウタツヤ・廣瀬太介・廣瀬眞理子・ 松嶋秀明
193	安田裕子	過程と発生を捉える TEA (複線経路・等至性アプロ ーチ) —不定とともにある 実存を探究する、人間科学 の質的研究法 (ポスター発 表)	2014 年 1 月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦 略的研究基盤形成支援事業公開研究 会、立命館大学	サトウタツヤ・福田茉莉・木戸彩恵
194	Yasuda, Y.	What meanings does the rupture bring in life? : From experiences of a woman who faced the crisis of reproduction (Individual Poster)	2014 年 3 月	III International Seminar of Cultural Psychology, Salvador, Brazil	
195	安田裕子	不定さから、経験が社会と 未来に拓かれるとき—非配 偶者間の生殖補助医療の出 現のなかで (ポスター発表)	2014 年 3 月	日本発達心理学会第 25 回大会、京都大 学	
196	安田裕子	文化間葛藤の場としての保 育 (国内研究交流委員会企 画シンポジウム企画、司会)	2014 年 3 月	日本発達心理学会第 25 回大会、京都大 学	大倉得史・松島京・山崎徳子・平松知子・ 秋田喜代美・鯨岡峻
197	Tokunaga R.	The influence of visual environment or visual perception on the cases.	2013 年 10 月	The 7th East Asian Psychology and Law Conference	Shinoda H.
198	KIM SUNGEUN	"The Legal Standing of Children Born under Surrogacy: With an Emphasis on the Parent-Child Relationship and Guaranteeing the Right to Know One's Origin,"	Oct. 25-27, 2013	The 7th East Asian Psychology and Law Conference, Hallym University Chuncheon, Republic of Korea	
199	金成恩	「韓国における性暴力被害 者支援の現状と課題」	2013 年 6 月	ライスボールセミナー、立命館大学	
200	金成恩	「韓国における家庭暴力 (DV)・性暴力被害者対する 支援体系」	2013 年 6 月	第八回法心理・司法臨床セミナーレポ ート、立命館大学	
201	金成恩	金成恩, 「DV・性暴力被害 者のための統合支援センタ ーの現在 —ソウル調査報 告—」	2014 年 1 月	法心理・司法臨床ミナー、立命館大学	
202	竹澤智美	写真上の人物の体形の見え と カメラの位置や向き： すらりと伸びる足と高身長 の 撮影方法.	2013 年 9 月	日本心理学会第 77 回大会	
203	竹澤智美	写真上の部屋の広さは撮影 方法で変わって見える： カメラアングルと カメラポジション	2013 年 11 月	関西心理学会第 125 回大会	
204	破田野智美	嗜好色とパーソナリティ特 性 との関係 —色のイメージと向性—	2013 年 5 月		松田博子・名取和幸・破田野智美
205	村上慎司	健康の社会的決定要因につ いての規範理論と政策対応 —健康の衡平性とその実 装可能性	2013 年 6 月	福祉社会学会 第 11 回大会、 立命館大学衣笠キャンパス	

206	村上慎司	グローバルな正義と健康— —ケイバビリティの観点	2013年9月	日本医療経済学会、第37回 大会、京都私学会館	
207	村上慎司	健康の社会的決定要因として のソーシャル・キャピタルの 規範理論—リベラル・コ ミュニタリアン論争の含意 から	2013年11月	関西倫理学会、2013年度大会、立命館 大学衣笠キャンパス	
208	高山一夫	自由貿易体制・TPPと医 療	2013年9月	日本医療経済学会・第37回学術研究大 会、京都私学会館	
209	高山一夫	自由貿易協定が医療制度に 及ぼす影響	2013年9月	日本医療病院管理学会・第51回学術総 会、京都大学	
210	松島京	保育所における外国につな がりのある子どもと保護者 の支援	2013年5月	日本保育学会 第66回大会、中村学園 大学・中村学園短期大学部	松浦崇、吉田晃高
211	松島京	外国人の子どもの問題につ いて社会学的な観点から	2014年3月	日本発達心理学会 第25回大会 シンポジウム「文化間葛藤の場として の保育」、京都大学	山崎徳子、平松和子、秋田喜代美、鯨岡 峻、大倉得史、安田裕子
212	高橋伸子	うつ予防プログラムが認知 機能に与える影響	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦 略的研究基盤形成支援事業公開研究会	石川真理子、土田宣明
213	高橋伸子	サポーターの社会的スキルと 失敗傾向に関する介入研究	2013年11月	対人援助学会	孫琴、吉田甫、土田宣明
214	金山好美	小中連携を目指した支援集 「リポート」講習会プログラ ムの効果の検討	2013年10月	日本LD学会 横浜国立大学	藤川沙織（筆頭） 川合哲郎
215	石川真理子	うつ予防プログラムが認知 機能に与える影響	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦 略的研究基盤形成支援事業公開研究会	高橋伸子、土田宣明
216	石川真理子	サポーターの社会的スキルと 失敗傾向に関する介入研究	2013年11月	対人援助学会	孫琴、吉田甫、土田宣明
217	Nameda, A	The meaning of retirement for about sixty year-old Japanese couple: The balance among paid work, personal life and household work	2014年3月	3 <sup>rd</sup> International Seminar of Cultural Psychology, Salvador, Brazil	Nameda, A
218	Nameda, A	What divide perceiving fairness from unfairness? Communal and individual sense of fairness in performing work/ family roles in close relationships	2014年2月	Fifteenth Annual Meeting of The Society for Personality and Social Psychology, Austin: The United States of America	Nameda, A
219	滑田明暢	家事遂行の変化へ向けた選 択肢の理解—日常生活にお いても参照可能な知見の構 築へ—	2013年11月	対人援助学会第5回年次大会、立命館 大学	滑田明暢
220	滑田明暢	共働きの生活総合家事分担 をめぐる価値観—オンライ ン知識共有コミュニティに おけるやりとりの分析—	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会、沖縄国 際大学	滑田明暢
221	滑田明暢	男女平等意識の継承：娘の 語りを通して	2013年11月	日本社会心理学会第54回大会、沖縄国 際大学	青野篤子・滑田明暢
222	滑田明暢	夫婦間の家事遂行における 相互調整過程	2013年9月	日本心理学会第77回大会、札幌市産業 振興センター	滑田明暢
223	滑田明暢	家事遂行の意味づけを捉え る	2013年9月	日本心理学会第77回大会（公募シンポ ジウム「ジェンダー研究における質的 アプローチの可能性」の話題提供）、札 幌市産業振興センター	滑田明暢
224	Nameda, A	Visualising narratives on the Great Earthquakes in Japan	2013年9月	European Association of Psychology and Law conference 2013 (Paper presented in Parallel session “The possibility of information visualisation in the law in Japan”), Coventry: The United Kingdom	Nameda, A., Wakabayashi, K., Nakatsuma, T., Hatano, T., Saito, S., Inaba, M. and Sato, T.
225	滑田明暢	夫婦における家事遂行に付 与されている意味づけ—満	2013年8月	日本質的心理学会第10回大会、立命館 大学	滑田明暢



		足と公正感覚の視点からの検討			
226	Nameda, A	Possibilities of narrative visualization: Case studies of lesson-learned-oriented archiving for natural disaster	2013年7月	Digital Humanities 2013、Nebraska-Lincoln: The United States of America	Nameda, A., Wakabayashi, K., Nakatsuma, T., Hatano, T., Saito, S., Inaba, M. and Sato, T.
227	安田裕子	過程と発生を捉える TEA (複線径路・等至性アプローチ) —不定とともにある実存を探究する、人間科学の質的研究法	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	サトウタツヤ、福田茉莉、木戸彩恵
228	上村晃弘	三次元表現による集団討議プロセス可視化ソリューションの可能性	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	斎藤進也、若林宏輔、山崎優子
229	金成恩	ドメスティック・バイオレンスと修復的司法	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	
230	渡辺克典	障老病異をめぐる包摂／排除	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	安部彰、堀田義太郎
231	山口真紀	「被害」の語りのアーカイビング——実践と、実践のための論理	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	
232	山中恵利子	シュッツのレリヴァンス概念の看護研究上の活用方法論	2014年1月	人間科学研究所年次総会・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業公開研究会、立命館大学	松田亮三
233	山崎優子	ワークショップ「犯罪被害者を取りまく問題 — 臨床心理学、法社会学、法心理学からの検討—」	2013年10月	法と心理学会 第14回大会, 九州大学	安田裕子・林久美子・佐伯昌彦・福井厚・綿村英一郎
234	山崎優子	ポスター発表「死刑賛否に影響する要因と死刑判断に影響する要因」	2013年9月	日本心理学会 第77回大会, 札幌コンベンションセンター	石崎千景
235	Yamasaki, Y.	ポスター発表「Factors that determine citizens' views on capital punishment」	2013年8月	18th Conference of the European Society for Cognitive Psychology, ELTE University Congress Center r	Ishizaki, C.
236	山崎優子	話題提供「事件報道の参照が裁判員の司法判断に及ぼす影響」	2014年3月	CAPS シンポジウム「裁判員裁判と集団意思決定」, 関西学院大学上ヶ原キャンパス	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第1回人間科学研究所アドバンスト研究会セミナー	衣笠キャンパス	2013年10月	30名	

2	第2回人間科学研究所アドバンスト研究 セミナー	衣笠キャンパス	2013年11月	10名	
3	第3回人間科学研究所アドバンスト研究 セミナー	衣笠キャンパス	2013年12月	10名	
4	比較ケア制度・政策プロジェクト研究会 「フランス医療の制度配置と政治 研究会 (Institutions and Politics of French Health Care)」	衣笠キャンパス	2013年4月	10名	産業社会学部
5	比較ケア制度・政策プロジェクト研究会 「医療機構規制の政治：日仏における医 療「問題」と改革」	衣笠キャンパス	2013年5月	10名	産業社会学部
6	第1回 健康と医療の人文・社会科学研 究会	衣笠キャンパス	2013年8月	10名	
7	日本質的心理学会第10回大会 一般公開 シンポジウム☆祭り 「Globalization & Diversion Era における多様な人間理解 にむけて」	衣笠キャンパス	2013年9月	100名	立命館大学グローバル・イノベーション研究 機構(R-GIRO)研究プログラム・「法心理・司 法臨床センター」・立命館大学生存学研究セン ター・科学研究費・新学術領域研究「法と人 間科学」公募研究「DV 被害母子支援の地域連 携ー福祉・心理と司法の融合に向けたアクシ ョンリサーチ」
8	第1回日英公衆衛生機構比較研究会議	衣笠キャンパス	2013年10月 (日本)	40名	京都大学大学院・健康政策・国際保健学講座 ／ケント大学保健・医療サービス研究センタ ー
9	第3回 TEM 東京研究会	東洋大学白山キャン パス	2013年11月	50名	科学研究費・基盤研究 C「ライフとキャリア の変容・維持過程の記述ー臨床と教育に 活 きる質的研究法 TEM」(研究代表者:安田裕子)
10	「ICT を用いた情報発信ー戦略と実施」 研究会	衣笠キャンパス	2013年12月	10名	
11	人間科学研究所年次総会 兼 私立大学戦 略的研究基盤形成支援事業公開研究会「イ ンクルーシブ社会に向けた支援の<学= 実>連環型研究」キックオフミーティング	衣笠キャンパス	2014年1月	50名	立命館大学生存学研究センター・立命館大学 R-GIRO 研究プログラム『「法と心理学」研究 拠点の形成」・立命館大学 R-GIRO 研究プログ ラム「対人援助学の展開としての学習学の創 造」・立命館大学 R-GIRO 研究プログラム「法 心理・司法臨床センター」
12	研究セミナー "Evidence Dissemination by Clearinghouses"(クリアリング・ハウ スを用いた エビデンスの普及)	衣笠キャンパス	2014年1月	10名	
13	研究セミナー「DV・性暴力被害者への支 援ー病院・心理士としての活動から」	朱雀キャンパス	2014年2月	30名	立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO)「法心理・司法臨床センター」
14	TEA 研究会	衣笠キャンパス	2014年2月	10名	科学研究費・基盤研究 C「ライフとキャリア の変容・維持過程の記述ー臨床と教育に活 きる質的研究法 TEM」(研究代表者:安田裕 子)・立命館グローバル・イノベーション研究 機構 (R-GIRO)「法心理・司法臨床センター」

15	高齢者支援チーム研究報告会	衣笠キャンパス	2014年2月	85名	日本老年行動科学会京都支部
16	むつき庵10周年記念企画実行委員会主催 公開企画「老いを支える技法」	朱雀キャンパス	2014年3月	400名	(株)はいせつ総合研究所 むつき庵、立命館 大学生存学研究センター、むつき庵10周年企 画実行委員会
17	東日本大震災復興支援チャリティー「震災 で消えた小さな命展 複製画展」	衣笠キャンパス	2014年3月 15~19日	200名	応用人間科学研究科

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等		研究期間
1	サトウタツ ヤ	情状心理鑑定を理解・活用するための 前提としての「法心理・司法臨床」	近畿弁護士連合会 第56回弁護士夏期研修		2013年8月1日
2	北岡明佳	「ガガが惚れた錯視アートの世界」	FLASH 2013年12月17日号 pp.64-66		2013年12月17日
3	中鹿直樹	「学生ジョブコーチの実践から考える『できる』の表現・伝達」	平成25年度日本自閉症スペクトラム学会 近畿支部第3回資格認定講座		2013年12月
4	中鹿直樹	「Visual Basic を用いた時間制御の プログラミング」	実験的行動分析京都セミナー第4回「変動性 を実現する：強化スケジュール研究におけるタイ マーとカウンター」		2014年3月
5	谷晋二	第3087回立命館土曜講座「障がい のある子どもを持つ家族へのメンタ ルヘルス支援」	衣笠キャンパス		2014年3月22日
6	野田正人	これからの少年センターの役割	大津市少年センター主催50周年記念講演：大津 市役所		2013年4月20日
7	野田正人	虐待問題と教育	乙訓少年支援の会「ひまわり」		2013年6月15日
8	野田正人	これからの少年センターの役割	報告書「大津少年センターの概要と平成24年度 活動のまとめ」		2013年7月
9	野田正人	いじめ問題	守山市教育委員会、教職員人権教育リーダー養 成集中講座 守山市地域総合センター		2013年8月1日
10	野田正人	虐待を受けている児童生徒への関わり 方	桑名市教育研究所 子ども虐待防止講座		2013年8月8日
11	野田正人	いじめ・不登校の早期対応と未然防 止	三重県名張市立桔梗が丘中学校夏期研修		2013年8月12日
12	野田正人	いじめへの指導と関係機関連携	滋賀県教育委員会 平成25年度生徒指導主任主 事連絡協議会：滋賀県立大学		2013年8月19日
13	野田正人	どこと、どのように連携すればいい の？-子どもたちの成長を共に支え る・関係機関との連携-	公益社団法人滋賀県人権教育研究会（草津研 究会）		2013年8月20日
14	野田正人	滋賀県障害者委員会の経験から 制 度と実態の課題整理	H25年度近畿弁護士連合会 高齢者障害者の 権利に関する連絡協議会夏季研修会		2013年9月6日
15	野田正人	講演 児童福祉法の現状	京都府家庭支援総合センター 市町村等児童福 祉専門職員養成研修		2013年10月21日
16	野田正人	児童虐待における愛着障害、二次障 害の問題とその対応について	米原市立米原中学校		2013年10月24日
17	野田正人	地域と協働する青少年支援のあり方	平成25年度近畿地区瀬得少年補導センター連絡 協議会総会 大津市		2013年10月25日
18	野田正人	講演 青少年の問題行動の解決に向 けて	近畿地区定時制通信制校長会総会		2013年11月5日
19	野田正人	不登校・いじめ問題について	平成25年度青少年相談機関に関する近畿ブロ ック連絡協議会 大津		2013年11月14日
20	野田正人	淇陽学校・来し方とこれから求めら れるもの	京都府立淇陽学校百周年記念式典		2013年11月25日
21	野田正人	児童虐待の対応と要保護児童対策地 域協議会の役割	三重県南伊勢町要保護児童対策地域協議会		2014年1月31日
22	野田正人	今の子どもたち 何を考えて どこ で大人とずれているの -今日の少 年の自立に関する諸問題について-	京都南部少年・少女自立支援の会「青空」 木津 川市中央交流会館 いずみホール		2014年2月1日

23	野田正人	地域における主任児童委員の役割	三重県志摩市要保護児童対策地域協議会 志摩市役所	2014年2月6日
24	野田正人	要保護児童対策地域協議会の役割	三重県津市要保護児童対策地域協議会	2014年2月13日
25	野田正人	児童虐待の気づきと対応	三重県東員町役場、東員町教職員など（三重県事業）	2014年2月13日
26	野田正人	児童虐待への対応	三重県尾鷲市 要保護児童対策地域協議会 同市中央公民館	2014年2月19日
27	野田正人	要保護児童対策地域協議会の活動と民生委員の役割	三重県いなべ市要保護児童対策地域協議会 いなべ市大安支所	2014年2月20日
28	野田正人	児童虐待防止・虐待の連鎖を断ち切るために	湖南省要保護児童対策地域協議会	2014年2月21日
29	野田正人	要保護児童対策等地域協議会の役割	三重県川越町役場 同町要保護児童対策地域協議会代表者会議	2014年3月6日
30	増田梨花	絵本と童謡の世界 1 (講演)	金沢市 文化振興財団 蓄音器館	2013年5月 10日
31	増田梨花	絵本と童謡の世界 2 (講演)	金沢市 文化振興財団 蓄音器館	2013年6月 28日
32	増田梨花	絵本と童謡の世界 3 (講演)	金沢市 文化振興財団 蓄音器館	2013年8月 7日
33	増田梨花	絵本と童謡の世界 4 (講演)	金沢市 文化振興財団 蓄音器館	2013年9月 19日
34	増田梨花	絵本と童謡の世界 5 (講演)	金沢市 文化振興財団 蓄音器館	2013年10月 24日
35	増田梨花	絵本と童謡の世界 6 (講演)	金沢市 文化振興財団 蓄音器館	2014年 1月 16日
36	増田梨花	絵本と童謡の世界 7 (講演)	金沢市 文化振興財団 蓄音器館	2014年 2月 20日
37	増田梨花	東日本・家族応援プロジェクト in 多賀城 2013 絵本と JAZZ のコラボレーションイベント (講演)	宮城県 多賀城市 多賀城市文化センター	2013年10月1日～10月27日
38	増田梨花	金沢市委託事業 協働のまちづくりチャレンジ事業・第3回 絵本の読み聞かせと読み合わせの違い 読み合わせって？実演に参加してみよう！ (講演)	金沢市 教育プラザ富樫	2013年11月30日
39	増田梨花	石巻を応援しよう！ ピクチャーブック ヒーリング 「絵本と JAZZ と太鼓のコラボレーション」 (講演)	東京 内田洋行株式会社 ユビキタス協創広場 CANVAS B1 (地下1階)	2013年4月20日
40	増田梨花	福祉講演会 絵本とJAZZ のコラボレーションワークショップ ―絵本とJAZZ で癒しのひとときを味わいましょう― (講演)	石川県 中能登町 ラピア鹿島	2014年3月2日
41	増田梨花	やすらぎ羽咋研修会 「ピアカフェでなごみましょう」 (講演)	石川県 羽咋市 羽松高等学校	2013年12月5日
42	増田梨花	珠洲の民話・絵本とジャズのコラボレーション (講演)	石川県 珠洲市 ラポルトすず	2013年8月18日

43	増田梨花	絵本とJAZZ のコラボレーションワークショップ ー絵本とJAZZ と和太鼓で癒しのひとときを味わいましょうー (講演)	宮城県 石巻市 大街道小学校	2013年5月25日
44	増田梨花	絵本とJAZZ のコラボレーションワークショップ ー絵本とJAZZ と和太鼓で癒しのひとときを味わいましょうー (講演)	宮城県 石巻市 にこにこサロン 宮城県 石巻市 アガライン	2013年5月26日
45	増田梨花	「震災で消えた小さな命展」 オープニングイベント (講演)	立命館大学 国際平和ミュージアム アカデメイア21 立命 中野ホール	2014年3月15日～19日 *オープニングイベント 3月16日
46	増田梨花・ 村本邦子・ 荒木穂積ほか	東日本大震災復興支援チャリティー 「震災で消えた小さな命展 複製画展」オープニングイベント「絵本の読み合せ」とJAZZと和太鼓のコラボレーションライブ	衣笠キャンパス	2014年3月16日
47	村本邦子	「子どもの存在をありのまま喜ぶこと」インタビュー (p.34-39)	チャレンジ2年生「考える力・プラス講座」はなまる教育情報	2013年6月1日～
48	村本邦子	NHK あさイチ「戦争ってなに？」 番組コメント	NHK あさイチ	2013年8月6日～
49	村本邦子	京都新聞「今も被災地と：続く支援、学ぶ視点」取材協力 (2014.3.10)		2014年3月10日～
50	松原洋子	「出生前検査は誰のためのものかー技術の倫理を考える」	第3055 回立命館土曜講座、立命館大学衣笠キャンパス	2013年5月11日
51	松原洋子	「出生前検査 その課題は？」(コメント)	NHKR1 ラジオ第一、夕方ニュース、夕方特集 私も一言!	2013年5月30日
52	松原洋子	「生存学セミナー2013 出生前診断の技術と倫理」(企画・司会)	キャンパスプラザ京都	2013年8月31日
53	松原洋子	「遠見卓見」(「日曜に考える 熱風の日本史 第12回「産めよ」「産まずな」国のため」コメント)	日本経済新聞朝刊	2013年11月17日
54	松原洋子	「電子書籍のアクセシビリティバリアフリーのためのイノベーション」	ラボカフェ シリーズ：科学技術イノベーション、第9回公共圏における科学・技術教育研究拠点(STIPS、大阪大学・京都大学連携プログラム)主催、アートエリアビーワン	2013年11月22日
55	安田裕子	治療の継続と終結をめぐる当事者の語りー生殖補助医療技術の発展のなかで可視化される、家族をつくるということ(公開報告会 グローバル化時代における生殖技術と家族形成)	立命館大学	2013年4月6日
56	安田裕子	日本質的心理学会第10回大会(2013年8月30日～9月1日)にて大会準備副委員長	立命館大学	2012年12月～2013年9月
57	安田裕子	日本コミュニティ心理学会第17回大会(2014年6月7日～8日)にて大会事務局長	立命館大学	2013年12月～(2014年6月)
58	安田裕子	子どもをもつことをめぐる女性の選択と経験ー語りからのアプローチ(公開研究会)	立命館大学	2014年3月26日
59	安田裕子	DV被害を受けた母子への支援ー法と心理・福祉の連携と協働の観点から(報告書)		2012年4月～2014年3月

60	徳永留美	第 6 回法心理・司法臨床セミナー, 「知覚的距離による物体表面の色恒 常性」	立命館大学	2013 年 5 月 13 日
61	破田野智美	日本心理学会第 77 回大会 公募シンポジウム(企画代表)「境界 拡張を取り巻く諸問題と心理学にお ける研究意義: 写真・絵画における 3 次元空間の表現」	北海道医療大学(札幌市産業振興センター)	2013 年 9 月
62	破田野智 美	口頭報告「写真の中のものの見 え方: 三次元性の錯視とその画 像表現への応用」	立命館大学衣笠キャンパス ライスボールセミナー	2013 年 6 月
63	植田一 博・小野 隼・北岡 明佳・小 林奈央 樹・杉原 厚吉・竹 澤智美・ 對梨成 一・友枝 明保・谷 田川達 也・山口 泰	冊子「道路の錯視と その軽減対策」	錯視美術館で配布するほか Web 上で公表	2013 年 7 月
64	竹澤智美	口頭報告「写真の中の三次元性 の錯視とその画像表現への応 用」	第 1 回応用錯視学研究会	2014 年 3 月
65	高橋伸子	講演会「認知症予防について」	JA 岩倉女性会	2013 年 5 月
66	金山好美	中学進学のためのリポート講習会	奈良 YMCA	2014 年 2~3 月
67	金山好美	発達障がい理解講座	帝塚山大学	2014 年 2 月
68	金山好美	奈良女子大学子育て支援 BU 講座	奈良女子大学	2013 年 2 月
69	石川真理子	講演会「エピソードで活かす子育て 支援」	京田辺市立三山木小学校	2014 年 1 月
70	福田茉莉	第 3085 回立命館土曜講座「クオリ ティ・オブ・ライフとはなにか?— 「ライフ」の質を考える—	衣笠キャンパス	2014 年 3 月 1 日
71	孫琴	第 3086 回立命館土曜講座「高齢者 支援の中で考える—支援する側・さ れる側の変化—	衣笠キャンパス	2014 年 3 月 15 日

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	サトウタツ ヤ	日本質的心理学会	日本質的心理学会フィー ルド論文賞	神経難病患者の生を捉えるラ イフ・エスノグラフィ—在宅療 養の場の厚い記述から	2013 年 9 月
2	安田裕子	日本学術振興会	平成 24 年度特別研究員等 審査会専門委員(書面担 当)の表彰	—	2013 年 7 月
3	篠田博之	照明学会関西支部	照明学会関西支部賞		2013 年 6 月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	サトウタツヤ	三次元地層モデリングを用いた供述過程の可視化システムの構築	新学術領域研究	2011年	2016年3月	代表
2	宇都宮博	成人初期における結婚生活に対するコミットメントの変容過程に関する研究	基盤研究(C)	2013年4月	2017年3月	代表
3	岡本直子	臨床場面における「投影ドラマ法」の可能性	若手研究(B)	2010年	2014年3月	代表
4	東山篤規	身体的姿勢によって変容する視空間の特性：斟酌理論に照らして	基盤研究(C)	2011年	2015年3月	代表
5	服部雅史	推論と判断における等確率ヒューリスティックと因果性	基盤研究(C)	2010年	2014年3月	代表
6	北岡明佳	新しい錯視群の多面的研究 — 実験心理学・脳機能画像・数理解析の手法を用いて —	基盤研究(A)	2010年	2014年3月	代表
7	廣井亮一	「司法臨床」の展開に関する実証的研究 — 弁護士と臨床心理士の協働をもとに —	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
8	山本博樹	高校「倫理」教科書の読解学習を支援する標識化の有効性に関する実証研究	基盤研究(C)	2011年	2014年3月	代表
9	谷晋二	障害のある子どもを持つ家族へのメンタルサポートプログラムの開発	基盤研究(C)	2011年	2014年3月	代表
10	土田宣明	運動抑制の加齢変化・反応タイプの違いに注目して	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
11	矢藤優子	幼児の描画検査におけるコンピュータ自動診断・自動採点システムの構築	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
12	中鹿直樹	「緩やかな所属による組織活動」におけるキャリア・アップ支援に関する研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	分担
13	松田亮三	社会包摂的医療に向けたアクション研究：「語り」にもとづく実践と政策形成	挑戦的萌芽研究	2013年4月	2015年3月	代表
14	秋葉武	政治的流動化過程における日韓NPO	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
15	中村正	虐待が生成する家族の相互作用と関係性の特性についての臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
16	大谷いづみ	生命倫理学におけるモンスター概念の変遷とその役割 — メタファーとしての奇形 —	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	分担
17	山本耕平	ひきこもる若者が実践主体となる支援の哲学・方法・制度の研究	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
18	小澤亘	多言語 DAISY テキストに基づく「外国人児童学習支援」に向けたアクションリサーチ	挑戦的萌芽研究	2011年	2014年3月	代表
19	津止正敏	ケア包摂型コミュニティとボランティアアソシエーションの構造相関性に関する臨床研究	基盤研究(C)	2011年	2014年3月	代表
20	櫻谷眞理子	児童養護施設退所者へのアフターケアと当事者活動の方向性	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
21	崎山治男	心理主義化と参加型社会の形成	若手研究(B)	2012年	2016年3月	代表
22	筒井淳也	パネルデータによる現代日本家族の動態研究	基盤研究(A)	2009年	2014年3月	代表
23	筒井淳也	公的雇用と女性労働の関連性についての国際比較研究	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
24	増田梨花	保育園における「気になる子ども」の早期支援を目的としたアセスメントツールの開発	基盤研究(C)	2012年4月	2015年3月	分担
25	村本邦子	変貌する家事紛争に対応した解決モデルの構築	基盤研究(A)	2010年	2014年3月	分担
26	村本邦子	日中の戦後世代を対象にした新たな東アジア型歴史・平和教育プログラム開発	基盤研究(B)	2011年	2014年3月	代表
27	松原洋子	高等教育機関における障害者の読書アクセシビリティの向上：ICTによる図書館の	基盤研究(B)	2013年4月	2016年3月	代表

		活用				
28	西成彦	比較植民地文学研究の基盤整備	基盤研究(C)	2012年	2015年3月	代表
29	渡辺公三	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	代表
30	井上彰	デモクラシーの規範性に関する分析的考察	若手研究(B)	2011年4月	2014年3月	代表
31	天田城介	現代社会における老いをめぐる社会構想の編成に関する研究	基盤研究(C)	2013年4月	2018年3月	代表
32	稲葉光行	メタバースを利用した日本文化に関する「状況学習」の支援環境に関する総合的研究	基盤研究(B)	2010年	2015年3月	代表
33	安田裕子	DV被害母子支援の地域連携—福祉・心理と司法の融合に向けたアクションリサーチ	新学術領域研究「法と人間科学」公募研究	2012年4月	2014年3月	代表
34	安田裕子	ライフとキャリアの変容・維持過程の記述—臨床と教育に活かす質的研究法 TEM	基盤研究(C)	2013年4月	2016年3月	代表
35	徳永留美	空間の明るさと影の知覚に基づいた明度知覚モデルの構築	若手研究 (B)	2013年	2015年	代表
36	高山一夫	社会包摂的医療に向けたアクション研究:「語り」にもとづく実践と政策形成	基盤研究(C)	2013年4月	2015年3月	分担
37	松島京	保育所に通う外国につながる子どもと保護者の支援に向けて	基盤研究(C)	2011年4月	2014年3月	代表
38	山崎優子	死刑に対する態度を規定する要因の心理学的検討	基盤研究(C)	2011年4月	2014年3月	代表
49	山崎優子	検察審査会の議決を規定する要因についての実証的研究	新学術領域研究「法と人間科学」公募研究	2012年4月	2014年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	稲葉光行	インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連携型研究	文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	2013年6月	2016年3月	代表
2	増田梨花	被災地における「絵本と JAZZ のコラボレーションイベント」における地域支援と効果研究	三菱 UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社 被災地支援活動研究助成金	2013年4月	2014年3月	代表
3	高山一夫	諸外国における社会包摂志向の医療展開についての研究	非営利・協同総合研究所いのちとくらし	2013年1月	2015年3月	代表
4	山本耕平	ひきこもる若者を対象とするピアアウトリーチ支援者養成に関する研究	第42回(平成23年度~平成25年度)三菱財団社会福祉事業・研究助成	2011年10月	2013年9月	代表
5	村上慎司	高齢者福祉の新たな所得保障に関する学際研究—自助・互助・共助・公助の再編を目指して	ユニバーサル財団平成25年度研究助成金	2013年11月	2015年3月	代表

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	篠田博之	眼疲労測定装置	本学以外	その他	2009-012323	2010-167092		

以上。